

| | | | |
|--------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 1学年 | 2単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 竹居田 幸仁 | | | |

| | | | |
|------|--|--|--------|
| 授業形態 | 講義（13コマ）、演習（2コマ）。講義中、随時10分程度の小演習（個別・グループ）も取り入れる。 | | 担当者 |
| 授業計画 | 第1回 | <p>心理学の歴史と方法 本講義のテーマ、講義の展開予定、受講上の注意などについて説明をする。また、心理学の歴史と研究方法について学び、本講義の到達目標について展望する。 key words：哲学における心理学、実験心理学の始まり（ヴェント）、ヴェント批判（ゲシュタルト心理学、行動主義、精神分析）</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第2回 | <p>脳と心理学 脳科学と心理学は密接な関係にある。本講義では、心の働きの基盤となる脳と神経の基礎的な仕組みと働きについて学習する。 key words：人間の脳の構造、脳の働き、高次脳機能障害</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第3回 | <p>心の発達 年齢によって人間の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当てて、これらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の分野は「発達心理学」とよばれている。本講義では人間の発達の諸側面、子どもの認知発達について学ぶ。 なお、本講義は初級障がい者スポーツ指導員の基準カリキュラム「各障がいの理解（知的障がい）」に該当する（知的障がいについて扱う時間は0.5時間）。 key words：こどもの認知発達（ピアジェ）、こどもの社会性の発達、生涯発達心理学、知的能力障害</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第4回 | <p>発達障害 平成19年度から全国で特別支援教育が開始され、ここ数年の間に発達障害に関する知識が急速に広まっている。本講義では代表的な発達障害であるAD/HD、SLD、自閉スペクトラム症の特徴について学び、支援の方法について理解を深める。 なお、本講義は初級障がい者スポーツ指導員の基準カリキュラム「各障がいの理解（知的障がい）」に該当する（講義時間は1.5時間）。 key words：発達障害、AD/HD、SLD、自閉スペクトラム症、太田ステージ理論、特別支援教育</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第5回 | <p>感覚と知覚 人間が外界に適応した行動をとるためには、外界を理解する必要がある。本講義では、我々が外界の情報を受容し、それを利用する手段である感覚と知覚について学ぶ。 key words：感覚、知覚的な体制化、奥行き知覚と知覚の恒常性、錯覚、運動の知覚</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第6回 | <p>学習 一般に学習というと、学校における教科学習を想像するが、心理学において学習とは「経験によって生ずる行動の変容」と定義される。本講義では、行動主義が提唱した学習原理と、社会的学習理論を概観する。 key words：古典的（レスポナント）条件づけ（パブロフ）、オペラント条件づけ（スキナー）、社会的学習理論（バンデューラ）</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第7回 | <p>記憶と思考 感覚・知覚によって入力されてきた情報は、私たちが環境に適応するために使用される。そのためには、情報を効率的に貯蔵し、この使用の方法についての戦略が必要になる。心理学では前者の課程を「記憶」と呼び、後者の課程を「思考」とよぶ。本講義では、人間の記憶と思考の仕組みについて学習する。 key words：記憶のしくみ、記憶の二重貯蔵モデル、問題解決と意思決定、推論</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第8回 | <p>動機づけと情動 人の行動は多様であるが、それぞれの行動には、その行動と結びついた特定の原因があると考えられる。例えば、Aさんが勉強を中断して夜食を食べたのは「空腹だったから」であろうし、また、恋人と別れてBさんが泣いたのは「悲しかったから」であろう。行動の原因と考えられるもののうち、前者のグループは「動機づけ」とよばれ、後者のグループは「情動」とよばれる。本講義では、人間の動機づけと情動について理解を深める。 key words：動機づけと欲求、マズローの欲求階層モデル、感情・情動、表出行動とコミュニケーション、動機づけと情動の病理</p> | 竹居田 幸仁 |

| | | |
|--------------------------------|--|---|
| | <p>第9回 性格 私たちはそれぞれ、他の人とは違うその人らしい考え方、感じ方、そして行動の仕方（行動様式）を持っている。このような考え方や行動の仕方は、状況の変化にも関わらず、時や場所を越えて、比較的一貫し、安定している。このことから、私たちに、このような個人の独自性と統一性をもたらすものが存在すると考えられ、それは「性格」とよばれる。本講義では性格の代表的な理論である「類型論」と「特性論」や性格の5因子モデルについて学ぶ。講義の後半では、臨床の現場で用いられる性格検査を体験する。 key words：類型論，特性論，性格の5因子モデル，性格検査の信頼性と妥当性</p> <p>第10回 対人関係と集団 人は生きていく中で、様々な他者と出会い、交流しながら関係を築いていく。人間は本質的に一人では生きていくことのできない存在だからである。しかし、他者とともにあることは、人生を豊かにする半面、様々な苦悩の源泉ともなる。本講義では、私たちが他者をどのようにとらえ、関わっているか、他者からどのような影響を受けているかを学習する。 key words：対人認知，対人感情，関係の維持</p> <p>第11回 臨床心理学（1） 「精神分析」 精神分析とは、オーストリアの神経学者フロイトによって創始された人間の心を研究する方法であり、理論であり、精神疾患や不適応の治療法である。本講義では、心理療法としての精神分析を中心に、その基本概念について学習する。 key words：意識，前意識，無意識，エス（イド），自我，超自我，エディプス・コンプレックス</p> <p>第12回 臨床心理学（2） 「分析心理学」 分析心理学はスイスの精神医学者カール・グスタフ・ユングによって創始された心理学・心理療法であり、一般にユング心理学として知られている。ユングは当初フロイトから強い影響を受けたが、その理論の違いからフロイトと決別することになる。本講義では、フロイトの理論との比較を通してユングの理論について理解を深める。 key words：個人的無意識，普遍的無意識，元型，症状の持つ意味，夢分析</p> <p>第13回 臨床心理学（3） 「クライアント中心療法」 カール・ロジャースは20世紀アメリカを代表する心理学者の1人である。ロジャースは人間の本質を善ととらえる人間観に基づき、人間の成長力、主体性を重視し、心理療法を「クライアント中心」に進めていくという大きな変革をもたらした。本講義ではロジャースの生涯をたどり、その理論の変遷について理解する。 key words：クライアント中心療法，パーソン・センタード，静かなる革命，受容，共感，自己一致，建設的なパーソナリティ変化が生じるための必要かつ十分な条件</p> <p>第14回 心理療法（1） 「コラージュ療法」演習 心理療法とは、「心の問題」に対する心理学の知見を用いた援助である。本講義では、心理療法の中でも「芸術療法」と呼ばれるものの1つである「コラージュ療法」を体験する。 key words：心理療法，芸術療法，コラージュ療法</p> <p>第15回 心理療法（2） 「箱庭療法」 箱庭療法はローエンフェルトによって考案され、その後、カルフがユングの考えを導入して発展させ、河合隼雄によって我が国へ導入され、さらに世界中に広がった技法である。本講義では、箱庭療法の分析方法を紹介し、それを応用し、自らが作成したコラージュについて検討を行う。 key words：コラージュ療法，箱庭療法，空間象徴</p> | <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> |
| <p>科目の目的</p> | <p>心理学を学ぶことにより、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う。自己および他者への理解を深め、社会の中で適応的に生活するために必要な心理学の知識を身に付けることを目的とする。 なお、第3・4回目の講義は初級障がい者スポーツ指導員の基準カリキュラム「各障がいの理解（知的障がい）」に該当する（講義実施時間は合計2.0時間）。</p> <p>ディプロマポリシー：【倫理観と幅広い教養】【基本的知識と技術】【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】【自己研鑽・探求力】</p> | |
| <p>到達目標</p> | <p>1. 心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る。 2. 心理学的援助の概要と方法について理解し、自らの専門分野に活かす。</p> | |
| <p>関連科目</p> | <p>【教養・共通基盤科目群】教育学，教育心理学，生命倫理，哲学，人間と宗教，家族社会学，生活文化と医療，人口知能・ロボットと社会，人間関係・コミュニケーション論，基礎統計学，情報処理，情報リテラシー，データサイエンス入門，大学の学び入門，大学の学び一専門への誘いー，多職種理解と連携</p> <p>【専門基礎科目群】生理学Ⅰ，生理学Ⅱ，生理学実習，人間発達学，生涯発達心理学，学習・認知心理学，心理測定法，行動科学とリハビリテーション，公衆衛生学，神経内科学，精神医学，小児科学，チーム医療とリハビリテーション，臨床心理学，医療統計学，社会福祉・地域サービス論</p> <p>【専門科目群】障害者スポーツ・レクリエーション論，発達支援理学療法学，災害保健学</p> | |
| <p>成績評価方法・基準</p> | <p>定期試験（レポート形式・50%）に毎回の講義後に作成する小レポート等の評価（50%）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。</p> | |
| <p>準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安</p> | <p>準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。 講義資料は、概ね講義の1週間前までにActive Academyにて配布するので、各自ダウンロードし</p> | |

| | |
|----------------|--|
| | ておくこと。 |
| 教科書・参考書 | 【教科書】 山祐嗣・山口素子・小林知博編著（2009）「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房 |
| オフィス・アワー | 講義後の教室において、もしくは事前にe-mailで予約のうえ、随時対応します。 |
| 国家試験出題基準 | なし |
| 履修条件・履修上の注意 | 講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。 |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 体験学習（90分のを2回、10分程度のを13回）を行う予定である。 |

講義科目名称： 生命倫理

授業コード： 4P006

英文科目名称： Bioethics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|-------|-----|-----|--------|
| 前期 | 3学年 | 2単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 峯村 優一 | | | |

| 授業形態 | 講義（ディスカッションを含む） | 担当者 |
|-------------------------|--|------|
| 授業計画 | 第1回 イントロダクション 総論 授業全体の予定や授業の進め方などの説明、生命倫理の概要 | 峯村優一 |
| | 第2回 生命倫理の基礎（1） 生命倫理の社会的・歴史の変遷、四原則 | 峯村優一 |
| | 第3回 生命倫理の基礎（2） 生命倫理の理論 | 峯村優一 |
| | 第4回 生命倫理の基礎（3） 臨床倫理の四分割表 | 峯村優一 |
| | 第5回 中絶（1） 中絶を守る立場と問題 | 峯村優一 |
| | 第6回 中絶（2） 中絶を守る立場と問題 | 峯村優一 |
| | 第7回 生命倫理の基礎と中絶のまとめ 生命倫理の基礎と中絶に関する重要な問題のまとめ | 峯村優一 |
| | 第8回 生命倫理の基礎と中絶のまとめと中間テスト 生命倫理の基礎と中絶に関する重要な問題の確認 | 峯村優一 |
| | 第9回 中絶（3） 中絶を批判する立場と問題 | 峯村優一 |
| | 第10回 中絶（4） 中絶を批判する立場と問題 | 峯村優一 |
| | 第11回 インフォームド・コンセント（1） インフォームド・コンセントの基本的な考え方、擁護する立場と問題 | 峯村優一 |
| | 第12回 インフォームド・コンセント（2） インフォームド・コンセントを批判する立場と問題 | 峯村優一 |
| | 第13回 難病（1） 難病療養者が抱える問題 | 峯村優一 |
| | 第14回 難病（2） 難病療養者と生命倫理 | 峯村優一 |
| | 第15回 中絶、インフォームド・コンセント、難病のまとめ 中絶、インフォームド・コンセント、難病に関する重要な問題のまとめ、期末試験 相談 | 峯村優一 |
| 科目の目的 | 生命倫理・医療倫理の概要・諸問題を、講義形式だけではなく、ディスカッションを通して、自分で考える力を身につけることを目的としています。時事問題や学生の関心によって講義内容を変更する場合があります。【倫理観と幅広い教養】【基本的知識と技術】【地域リハビリテーションの理解・問題解決能力】【自己研鑽・探求力】 | |
| 到達目標 | 医療者は時に「医療者視点」が絶対的であるという思い込みに陥りがちになります。医療の主役はあくまで患者さんやその家族です。この授業を通して「医療は誰のものか」ということを改めて考えることができるようになること、また生命倫理の各トピックに関する倫理的問題を考察して、医療者として適切な判断ができるようになることを目指します。 | |
| 関連科目 | 哲学、公衆衛生学、生活文化と医療、社会学、生物学、心理学 | |
| 成績評価方法・基準 | 中間テスト（50%）、期末テスト（50%）による総合評価。講義前に教科書、資料を読み、講義中の講師からの質問に対して、講義資料に従って的確に返答する学生を高く評価する。 | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 教科書を読むようにしてください。また授業に関する資料を配布しますので、資料に目を通してください。1コマあたりの学習時間の目安2時間。 | |
| 教科書・参考書 | （教科書） 鎌田依里・峯村優一著 2023 『難病療養者のこころー心理臨床と生命倫理の視点からー』 創元社 （参考書） 霜田求編 2018 『テキストブック生命倫理』 法律文化社 | |
| オフィス・アワー | 個別の相談は事前の連絡によって随時対応します。 | |
| 国家試験出題基準 | | |

| | |
|----------------|---|
| 履修条件・履修上の注意 | 授業開始時および授業中の私語禁止、授業中のスマートフォンおよび携帯電話の使用も禁止します。注意しても改善がみられない場合は退室を命じる場合があります。 |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 講義中の講師からの問いかけに答える、またディスカッションに参加するアクティブラーニングを実施。 |

講義科目名称： 哲学

授業コード： 4P007

英文科目名称： Philosophy

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 2学年 | 2単位 | 選択 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 赤羽 悠 | | | |

| 授業形態 | 講義 | 担当者 |
|-------|--|------|
| 授業計画 | 第1回 イントロダクション 哲学とは何か 宗教と哲学 哲学と社会学・人類学 | 赤羽 悠 |
| | 第2回 古代哲学（1） 「対話」とは何か／「真理」について 【ソクラテス／プラトン／アリストテレス】 | 赤羽 悠 |
| | 第3回 古代哲学（2） 「生きる技術」についての問い 【ストア派／エピクロス】 | 赤羽 悠 |
| | 第4回 中世哲学 意志と恩恵 【アウグスティヌス】 | 赤羽 悠 |
| | 第5回 近世・近代哲学（1） 大陸合理論／「理性」について 【デカルト／スピノザ】 | 赤羽 悠 |
| | 第6回 近世・近代哲学（2） 社会契約論／「国家／社会」とは何か 【ホッブズ／ロック／ルソー】 | 赤羽 悠 |
| | 第7回 近世・近代哲学（3） イギリス経験論の系譜／「私」はどのようにつくられるのか 【ロック／バークリー／ヒューム】 | 赤羽 悠 |
| | 第8回 近世・近代哲学（5） ドイツ観念論の出発点としてのカント／「理性」批判 【カント】 | 赤羽 悠 |
| | 第9回 近世・近代哲学（5） ドイツ観念論の展開 【フィヒテ／ヘーゲル】 | 赤羽 悠 |
| | 第10回 近代哲学の問い直し（1） 「真理」と「道徳」を問う 【ニーチェ】 | 赤羽 悠 |
| | 第11回 近代哲学の問い直し（2） 「意識」と「主観」を問う 【フロイト、マルクス】 | 赤羽 悠 |
| | 第12回 現代哲学（1） 「現象」を考える 【フッサール、メルロ＝ポンティ】 | 赤羽 悠 |
| | 第13回 現代哲学（2） 「実存」をめぐって 【ハイデガー、サルトル】 | 赤羽 悠 |
| | 第14回 現代哲学（3） 「全体主義」の経験から考える 【アーレント】 | 赤羽 悠 |
| | 第15回 講義の総括 現代哲学のその後 改めて、哲学とは何か | 赤羽 悠 |
| 科目の目的 | 哲学をすることは、日常からかけ離れた抽象的なことをあれこれ考えることではなく、身近にあるが、しかし容易には答えの出ない問題を、普段よりもう一段掘り下げて考えてみることであり、歴 | |

| | |
|-------------------------|---|
| | <p>史上の偉大な哲学者が行ってきたことも、実はそうしたことにほかならない。この講義では、そのような哲学者たちの思考の営みをみながら、受講者自身が生きていくなかで問題に直面する際、役立つような哲学的思考を身に着けてもらうことを目指す。講義は「授業計画」に従って進めるが、受講者の理解度等をふまえて若干進度を変更する場合がある。また、現代の問題にも適宜触れながら進めていきたい。</p> <p>ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）における位置づけ：本科目は【コミュニケーション能力】【論理的思考・多様性理解】【知的探求心と創造性】【社会に貢献する能力】に該当する。</p> |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史上の哲学者がどのような問いを立て、その問いにどのように取り組んできたのかを理解する。 2. 1を通じ、哲学的に問いを立てるといったことがどういうことかを学ぶ。 3. 以上を通じ、生きていくなかで直面する様々な問題に対処するにあたり必要とされる、哲学的な思考を身に着ける。 |
| 関連科目 | <ul style="list-style-type: none"> ● 「人間と宗教」、「社会学」、「心理学」、「生命倫理」等の科目と関連を有する。 |
| 成績評価方法・基準 | <ul style="list-style-type: none"> ● 期末筆記試験（論述）の成績による（100 %）。 ● 詳細については初回講義時に説明する。 |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | <ul style="list-style-type: none"> ● 予習については特に求めない。講義の場で話を聞き、またそれについてその場で考えることに集中してもらいたい。 ● 他方、授業後に内容を振り返り、扱われたテーマについて自分なりに考えをまとめる復習の作業はおこなってほしい。そのために必要な学習時間については、概ね1時間程度を目安とする。 |
| 教科書・参考書 | <ul style="list-style-type: none"> ● 教科書は用いない。講義は講義資料（レジュメ）を配布し、それに基づいて行う。 ● 初学者にもわかりやすい哲学史の教科書としては、竹田青嗣・西研編『はじめての哲学史』（有斐閣アルマ）などがあるが、講義をそれに沿って行うわけではない。 ● 哲学とは何かについて考えるうえでは鷲田清一著『哲学の使い方』（岩波新書）などが役立つが、こちらもあくまで参考として挙げておきたい。 ● その他の参考文献については、講義の中で紹介したい。 |
| オフィス・アワー | <ul style="list-style-type: none"> ● 講義の前後（場所：教室もしくは非常勤講師控室） |
| 国家試験出題基準 | |
| 履修条件・履修上の注意 | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 実施なし |

| | | | |
|-------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 2学年 | 1単位 | 選択 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 一柳 大輔 | | | |

| | | | |
|-------------------------|--|--|-----|
| 授業形態 | 講義6回、実習(ボランティア体験活動)2回 | | 担当者 |
| 授業計画 | 第1回 | ガイダンス、ボランティアの現状、ボランティアの歴史について 本講義の目的、授業の流れ等ガイダンスの説明。日本におけるボランティアの現状、ボランティアの定義、日本・欧米におけるボランティアの歴史について説明する。 また「民生委員・児童委員」「NPO」といった多様なボランティアの歴史を説明する。 | 一柳 |
| | 第2回 | ボランティアに関する情報収集、ボランティアセンターの役割について ボランティア活動をスタートするにあたり、必要となる情報収集の方法について説明する。ボランティアセンターの組織や活動内容について説明し、各市区町村に設置されているボランティアセンターの活用方法を理解する。また、申請までのロールプレイングを行い、ボランティア参加までの流れを理解する。 | 一柳 |
| | 第3回 | 寄付と還元について 共同募金(赤い羽根共同募金)を例に寄付文化とその還元について説明する。寄付がどのようなかたちで使われているか、実際の事業を紹介し理解を深める。 | 一柳 |
| | 第4回 | 性的マイノリティとボランティア活動について 性的マイノリティに関連する団体の事業を紹介する。また、居場所事業・相談支援事業・啓発活動に関する紹介を通してボランティアとしてどう関わられるかを考察する。また、「アライ(支援者)」として性的マイノリティの方との交流を支援的側面に特化して説明する。 | 一柳 |
| | 第5回 | 生活課題を抱えた方への支援とボランティア活動について 高齢者や障害者で孤独や生活課題を抱えている方などを対象とした居場所事業やコーディネート実践の紹介を通してボランティアとしてどう関わられるかを考察する。 | 一柳 |
| | 第6回 | ボランティア体験活動~障害者スポーツ体験~ 障害者スポーツ体験を実施する。障害者を支援する側される側、双方の立場を体験しながらボランティアとしての関わり方を体験する。※体育棟で土曜日に実施。第7回と兼ねる。 | 一柳 |
| | 第7回 | ボランティア体験活動~障害者スポーツ体験~ 障害者スポーツ体験を実施する。障害者を支援する側される側、双方の立場を体験しながらボランティアとしての関わり方を体験する。※体育棟で土曜日に実施。第6回と兼ねる。 | 一柳 |
| | 第8回 | ボランティア体験の実践発表、ボランティアに関する企業の取り組みの紹介 講義をとおした学びとボランティア体験に関する発表を行う。様々な背景を持つ学生同士で知見を共有、考察する。また、民間企業の社会貢献活動の取り組みを紹介し、卒後の専門職キャリアを歩むうえでのボランティア活動の捉え方を考察する。 | 一柳 |
| 科目の目的 | 1. ボランティア活動の多様なあり方を理解する 2. ボランティアに関連するステークホルダーを知り、他者を尊重し、自身のかかわり方を考察する 3. 専門職として地域社会に主体的かつ創造的に貢献できる人材の育成 【コミュニケーション能力】【論理的思考・多様性理解】【知的探求心と創造性】【社会に貢献する能力】 | | |
| 到達目標 | 1. ボランティア活動の基本概念、歴史、現在の多様なニーズを理解し、ボランティアの意義を説明できる状態 2. 実践、体験を通して、地域社会のニーズやボランティア活動について説明できる状態 3. ボランティア・市民活動の実践を振り返り、専門職としての職業観の確立の基礎作りに寄与できている状態 | | |
| 関連科目 | なし | | |
| 成績評価方法・基準 | ボランティア体験レポート(50%)・授業内レポート(50%) | | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 個人、専門職としてどのようにボランティアと関わるかを自身なりに整理し、言語化できるようにしておくこと。テーマに沿って自身の気になるトピックスを学習しておくこと。準備学習に必要な時間の目安：1コマあたり2時間 | | |
| 教科書・参考書 | 使用しない | | |

| | |
|----------------|---------------------|
| オフィス・アワー | 授業の前後（教室もしくは非常勤講師室） |
| 国家試験出題基準 | |
| 履修条件・履修上の注意 | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 体験学習、教室内での演習、ディベート |

| | | | |
|--------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 2学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 竹居田 幸仁 | | | |

| | | | |
|------|---|---|--------|
| 授業形態 | 授業のはじめの30分程度講義を行い、残りの時間は講義で取り上げた内容について演習（個別・グループ）を行う。 | | 担当者 |
| 授業計画 | 第1回 | <p>自分を知る 対人援助職において、相手の価値観を知り、その人について理解を深めることは、被援助者との間に望ましい人間関係を築いていく上で実りの多いことである。しかし、相手の価値観を知る前に、まずは自分の価値観を意識化しておく必要がある。本講義で、SCT（文章完成法を行い、「自分とは何か」という問いに対する答えを考える。 key words：自己理解，SCT</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第2回 | <p>心理療法（1） 「心の天気」 私たちは、いろいろなことを感じて、それを誰かに聞いてもらいたかったり、表現したかったりする。しかし、なかなか上手く言えなかったり、聞いてもらえなかったりする。表現することをあきらめてしまうことがよくある。そうすると、しまいには、自分が何を感じているのか自分でもわからなくなってしまい、落ち着きがなくなったり、わけもなく不安になったりする。 本講義では、「こころの天気」というワークを通じ、こころを天気に例えてみることで、今の自分の感じをわかりやすく表現し、今の自分のこころはどのような状態なのかきちんと把握する体験をする。 key words：こころの天気，からだの感じ調べ</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第3回 | <p>心理療法（2） 「自立訓練法」 私たちのこころと体は密接な関係があり、不安やストレスが原因で体に症状が出ることもある。逆に、体の緊張を解きほぐすことでこころが穏やかになり、リラックスできるとも考えられる。本講義では「不安階層表」を作成することにより自分が不安になる場面を想起し、一時的に不安状態になったところで自己催眠法である「自律訓練法」を実施し、不安を緩和する体験をする。 key words：不安階層表，自立訓練法，基本公式，第一公式，第二公式</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第4回 | <p>心理療法（3） 「LAC法」（1） 大学入学後、本業である学業に対して無気力となり、サークル活動やアルバイト、余暇活動などに没頭するということは、誰でも経験し得ることである。そのような時は、自分の人生・生活全体を詳しく丁寧に分析して振り返り、自発的に自分の人生（生活）の目的（やりたいこと・やるべきこと）を設定して、意欲的に目的の達成に取り組んでいくことが必要である。本講義では、そのような取り組みを支援する方法である生活分析のカウンセリング(life analytic counseling)について、事例を通して実施方法や臨床への活用方法について学ぶ。 key words：生活分析のカウンセリング，スチューデント・アパシー</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第5回 | <p>心理療法（4） 「LAC法」（2） 前回の講義で学んだLAC法を体験する。 key words：生活分析のカウンセリング，必要性，可能性，平均</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第6回 | <p>心理療法（5） 「ストレスマネジメント」 対人援助職が他者に対して支援を行う際、まずは自らの心身の健康を保つことが求められる。同じ体験をしても、ストレスを強く感じる人と、それほど感じない人がいるが、その一因としてストレスへの対処法の得手・不得手が挙げられる。本講義では、質問紙への回答を通して、ストレスを引き起こす原因である「ストレスサー」が自分の身の回りにどれくらいあるかを把握し、ストレスマネジメントのワークを通してストレスサーによって「ストレス反応」が生じさせられることを防ぐための対処法を体験する。 key words：ストレスサー，ストレス反応，ストレスコーピング</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第7回 | <p>心理療法（6） 「解決志向ブリーフセラピー」 カウンセリングや心理療法において、クライアントの問題が解消するまでにかかる時間はクライアントによってまちまちであり、中には何年も時間を要するケースもある。ブリーフセラピーとは、クライアントとカウンセラーができるだけ協力して、効率的な問題解決を目指す心理療法である。本講義ではそのエッセンスを活用した「解決志向ブリーフセラピー」を体験し、日常生活で抱えている問題の解決の糸口を見つけ出すことを目指す。 key words：ブリーフセラピー，スケーリングクエスチョン，コーピングクエスチョン，エクセプチョンクエスチョン，ミラクルクエスチョン</p> | 竹居田 幸仁 |

| | | |
|--------------|--|---|
| | <p>第8回 心理療法（7） 「タッピングタッチ」 タッピングタッチとは、指先の腹のところを使って、左右交互に、軽く弾ませるようにタッチすることを基本としたホリスティック（統合的）でシンプルなケアの手法である。本講義ではペアワークを通してタッピングタッチを体験し、その手法を習得する。 key words：タッピングタッチ，トラウマケア</p> <p>第9回 心理療法（8） 「フォーカシング」（1） フォーカシングとは、やさしい、許容的な態度で自分のからだに注意を向け、「フェルト・センス」と呼ばれる微妙な水準の認識に気づくようになるプロセスのことである。本講義では、フェルト・センスを感じるための練習を行う。 key words：フォーカシング，フェルト・センス，からだの感じ調べ</p> <p>第10回 心理療法（9） 「フォーカシング」（2） 私たちは、何か心配なことや気がかりなことがあると、それが頭から離れず、本来やるべきことに手が付けられないということがある。本講義では、自分の内面にある気がかりや問題を挙げていき、思い浮かんだものから適当な心理的距離をとる方法である「クリアリング・ア・スペース（clearing a space：CAS）の練習を行う。 key words：フォーカシング，クリアリング・ア・スペース</p> <p>第11回 心理療法（10） 「行動療法」 行動療法では、クライアント（または保護者等）とカウンセラーが共同して行動面での治療目標を立て、さまざまな技法を用いて不適切な反応を修正する。たとえば、楽しい雰囲気の中で、スモールステップで、徐々に恐怖対象に近づき、慣れるようにさせたり、賞賛やごほうび等を用いて、新しく適切な反応（感情や行動）を習得させる。本講義では、スモールステップの目標設定の練習を行う。 key words：行動療法，スモールステップ，強化，強化子</p> <p>第12回 心理療法（11） 「認知行動療法」 「無くて七癖」ということわざがあるように、誰にでも“クセ”というものがあるが、実は、ものの考え方も“クセ”がある。認知行動療法とは、自分の考え方のクセ（自動思考）に気が付き、その誤りや偏りを適切な方向に修正していくという心理療法である。本講義では、自らの自動思考に気が付き、適切な考え方を探る練習を行う。 key words：認知行動療法，自動思考</p> <p>第13回 コミュニケーションスキルの基礎 コミュニケーションは、双方のやり取りで成立するものであり、一方通行では成り立たないものである。コミュニケーションは、言葉による伝達だけではなく、言葉以外の文字や身振り、表情なども含まれ、内容の正しさはもちろん、どのように伝えるかが大切である。本講義では円滑なコミュニケーションが成立するための基本的なスキルについて演習を交えて学習する。 なお、本講義は初級障がい者スポーツ指導員の基準カリキュラム「コミュニケーションスキルの基礎」に該当する（講義時間は1.5時間）。 key words：コミュニケーション，バーバルコミュニケーション，ノンバーバルコミュニケーション</p> <p>第14回 臨床心理アセスメント（1） 質問紙法 質問紙法は、印刷された質問文、またはウェブサイト上の質問文に対して、いくつかの選択肢からあてはまるものを回答する臨床心理アセスメントのための道具である。本講義では、POMS2日本語版を体験し、自分のおかれた条件の下で変化する一時的な気分・感情を測定する。 key words：質問紙法，POMS2</p> <p>第15回 臨床心理アセスメント（2） 描画法 様々な対象を指定して画用紙に絵を描かせる心理検査を「描画法」と総称している。画用紙という環境にいかにか自己表現するかによって、被検査者のパーソナリティの構造や動き具合を測定しようとする検査である。本講義では風景構成法を体験し、その理論や臨床への適応について学ぶ。 key words：描画法，空間象徴，風景構成法</p> | <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> |
| <p>科目の目的</p> | <p>私たちは、様々な悩みや問題を抱えながら生きている。カウンセリングでは、人がこうした悩みや問題に自分らしく向き合っていくプロセスに寄り添い、その方のこころを聴かせていただく。 本講義では、「カウンセリングとは何か」を深く理解できるよう、カウンセリングの実践における理論と技法を学ぶ。また、さまざまな疾病・障害を持っている患者やその家族の心理について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。 なお、第13回目の講義は初級障がい者スポーツ指導員の基準カリキュラム「コミュニケーションスキルの基礎」に該当する（講義実施時間は1.5時間）。</p> <p>ディプロマポリシー：【倫理観と幅広い教養】【基本的知識と技術】【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】【自己研鑽・探求力】</p> | |
| <p>到達目標</p> | <ol style="list-style-type: none"> 傾聴について理解を深め、受容的・共感的な傾聴ができるようになる。 自分自身のこころに向き合っていけるようになる。 精神科系統の疾患・障害をもつ患者やその家族の心理について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得し、対人援助に活用できるようになる。 病気になる、障害を負うということ考えることで、理学療法士として必要な援助的態度をとれるようになる。 | |

| | |
|-------------------------|---|
| 関連科目 | <p>【教養・共通基盤科目群】心理学, 教育学, 教育心理学, 生命倫理, 哲学, 人間と宗教, 社会学, 生活文化と医療, 大学の学び入門, 大学の学び-専門への誘い-, 多職種理解と連携</p> <p>【専門基礎科目群】生理学Ⅰ, 生理学Ⅱ, 人間発達学, 公衆衛生学, 臨床神経学Ⅰ(神経内科学), 臨床神経学Ⅱ(小児神経学・脳神経外科学), 精神医学, 小児科学, リハビリテーション医学, 老年医学, 臨床心理学, リハビリテーション関連領域論, 安全管理, 医療統計学, 障害者スポーツ・レクリエーション論</p> <p>【専門科目群】小児理学療法学, 理学療法特殊講義</p> |
| 成績評価方法・基準 | 定期試験(レポート形式・50%)に毎回の受講後に作成する小レポートの評価(50%)を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。 |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | <p>準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について, 1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。</p> <p>講義資料は, 概ね講義の1週間前までにActive Academyにて配布するので, 各自ダウンロードし, 講義の際はプリントアウトして手元に用意しておくこと。</p> |
| 教科書・参考書 | <p>【教科書】 なし(必要に応じて資料を配布)</p> <p>【参考書】 山祐嗣・山口素子・小林知博編著(2009)「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房 ※ 必修科目「心理学」の教科書</p> <p>下山晴彦編著(2009)「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房 ※ 必修科目「臨床心理学」の教科書</p> |
| オフィス・アワー | 講義後の教室において, もしくは事前にe-mailで予約のうえ, 随時対応します。 |
| 国家試験出題基準 | 《専門基礎》-Ⅱ-1-B-a, 《専門基礎》-Ⅱ-5-D |
| 履修条件・履修上の注意 | 講義中の私語, スマートフォン・携帯電話の使用, 講義と関係のない作業(他の科目の学習等)は禁止します。注意しても止めない場合や, それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ, その回の講義の出席を認めない場合もあります。 |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 毎回60分程度の体験学習を行う。 |

| | | | |
|-------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 1学年 | 1単位 | 選択 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 嶋田 淳子 | | | |

| 授業形態 | 講義 | 担当者 |
|-------------------------|---|---|
| 授業計画 | <p>第1回・2回 遺伝ーヒトを中心にーその1</p> <p>①遺伝子の転写 ②遺伝子の翻訳 ③原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール ④エピジェネティクス</p> <p>第3回・4回 遺伝ーヒトを中心にーその2</p> <p>①遺伝子の複製 ②単一形質（メンデル形質）で発現する遺伝病 ・常染色体性顕性遺伝病、潜性遺伝病と伴性遺伝病 ・保因者、患者の出現頻度ーハーディーワインベルグの法則の有用性ー ③染色体異常 ④ミトコンドリア病 ⑤体細胞遺伝病</p> <p>第5回・6回 ヒトの受精と初期発生</p> <p>①ヒトの配偶子形成：減数分裂と遺伝子の組み換え、精子と卵子の形成 ②受精：精子の先体反応、受精と多精拒否の機構 ③胚盤胞の形成と着床 ・始原生殖細胞の形成 ・内細胞塊の分化と胚葉の形成 ④胚葉の分化 ⑤前胚子期と胚子期 ⑥発生をつかさどる遺伝子 ⑦先天異常発生の要因</p> <p>第7回・8回 細胞科学の先端研究と医療への応用</p> <p>①オミックス解析の現状と課題 ②細胞内タンパク質の再利用 ・ユビキチンープロテアソーム系 ・オートファジー ③iPS細胞 基礎研究と応用研究の進捗状況 ④細胞周期調節のしくみとがん化 ⑤細胞分裂の限界と老化</p> | <p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p> |
| 科目の目的 | <p>高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、保健医療の専門職として、先進・高度化しつつある専門領域の学習を理解するために必要な生命科学の基礎知識を深めることを目的とする。本講義では、生物学Aで学んだ知識をベースに、生命活動を支えるエネルギー獲得、真核細胞のDNA複製や遺伝子の情報発現、情報発現の調節などを詳しく学ぶ。また、ヒトの遺伝病、先天異常及びヒトの初期発生について学ぶ。さらに医療分野に直接関連する基礎生物学分野の研究進捗状況について理解する。【倫理観と幅広い教養】【基本的知識と技術】【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】【自己研鑽・探求力】</p> | |
| 到達目標 | <p>生物学Aの学習内容を基礎として次の事項を理解し、説明できる力を身につける。</p> <p>①光合成によるエネルギー獲得の詳細と呼吸による生命活動のエネルギー産生について詳細に説明できる。</p> <p>②真核細胞におけるDNAの複製、遺伝情報発現、情報発現コントロール、DNAの変異などについて知識を深める。</p> <p>③ヒトのメンデル様式による遺伝病およびそれ以外の要因による遺伝病について学び、説明できる。</p> <p>④ヒトの受精、発生初期における細胞分裂の詳細と形態形成及び先天異常発生の要因について学び、説明できる。</p> <p>⑤細胞科学の先端基礎研究と医療分野との関連について理解し、説明できる力を身につける。</p> | |
| 関連科目 | 基礎生物学、化学A、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学 | |
| 成績評価方法・基準 | 定期試験の成績（80%）及び講義終了時に提出するリアクションペーパー（20%）により評価する。 | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。 | |
| 教科書・参考書 | <p>教科書：「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄（医歯薬出版株式会社）</p> <p>参考書：1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂） 2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻」 D. サダヴァ他著 ブルーバックス</p> | |

| | |
|----------------|--|
| | (講談社) 3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝 (羊土社) |
| オフィス・アワー | 授業終了後に教室で、または随時e-mailで質問を受ける |
| 国家試験出題基準 | |
| 履修条件・履修上の注意 | 基礎生物学を履修していることが望ましい。 |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 授業の中でグループワークを行う。 |

| | | | |
|-------|------|-------|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 1学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 星野 修平 | 星野修平 | 竹居田幸仁 | 峯村優一 |

| 授業形態 | 講義 | 担当者 |
|------|---|-------|
| 授業計画 | 第1回 大学の学び入門とは ・科目の目的・目標・進め方 ・高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い ・アカデミック・スキル、スチューデント・スキルとは | 星野修平 |
| | 第2回 学ぶスキル（1） ・ノートの取る ・講義に参加する | 星野修平 |
| | 第3回 学ぶスキル（2） ・本を読む ・文献を探索する ・図書館を活用する | 星野修平 |
| | 第4回 学ぶスキル（3） ・オンラインコミュニケーション ・メールの活用、SNSの活用と課題 ・クラウドサービスの利用 | 星野修平 |
| | 第5回 学ぶスキル（4） ・大学の理念、教育の理念 ・群馬パース大学の教育の理念を聞き、大学の学びを考える ゲストスピーカー：栗田昌裕学長 | 星野修平 |
| | 第6回 学ぶスキル（5） ・保健・医療・福祉の理念 ・医療専門職を目指す入学動機を検証し、学習、生活両面の自分自身の目標を見つける ゲストスピーカー：國元文生群馬パース病院長 | 星野修平 |
| | 第7回 書くスキル（1） レポートの書き方1 ・レポートとは何か、レポート作成の手順、よいレポートとは | 峯村優一 |
| | 第8回 書くスキル（2） レポートの書き方2 ・論文作法 | 峯村優一 |
| | 第9回 書くスキル（3） レポートの書き方3 ・講義レポートの形式 | 峯村優一 |
| | 第10回 リサーチスキル（1） ・リサーチスキルの意味 ・インターネットの利用とデータ収集 | 星野修平 |
| | 第11回 リサーチスキル（2） ・データを集めて集計する ・データから基本統計量を計算する | 星野修平 |
| | 第12回 生きるスキル（1） ・相手の話を聴く ・ロールプレイを通して基本的なカウンセリングの技法を体験する | 竹居田幸仁 |
| | 第13回 生きるスキル（2） ・自分の気持ちや考えを伝える ・グループワークを通し、自分の感情や意思をわかり易く伝える練習をする | 竹居田幸仁 |
| | 第14回 生きるスキル（3） ・協力して作業する ・これまでのワークを通して身につけたスキルを活用し、周囲と協力して課題を達成する | 竹居田幸仁 |

| | | |
|-------------------------|--|------|
| | 第15回 生きるスキル（4） ・自身の人生とライフスタイルを考える ・他者の意見を聞き、自ら考える ゲストスピーカー：樋口建介理事長 | 星野修平 |
| 科目の目的 | 大学での学習形態や学問に対する姿勢、大人としての生活態度を認識、理解し、高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行することができるように、基本的なスキル、姿勢を学ぶ。 1. 与えられた知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけ、それを解決していく大学の学習のためのスキルの習得、姿勢の理解 2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活のためのスキルと姿勢の理解。 【倫理観と幅広い教養】 【基本的知識と技術】 【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】 【自己研鑽・探求力】 | |
| 到達目標 | 1. 大学での学習に必要な学習習慣・学習技術（アカデミック・スキル、情報処理に関するスキル、ルール、マナー）を理解し、授業やレポートで実践できる。 2. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、大学生活で実践できる。（スチューデント・スキル、コミュニケーションスキル） | |
| 関連科目 | 全科目 | |
| 成績評価方法・基準 | 星野担当課題（50%、課題に対するフィードバックはAAにて掲示を行う） 峯村担当分課題（25%、課題はコメントと共に後日返却する） 竹居田担当意見文・感想文（25%、意見文・感想文の内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う） | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 前回授業の重要事項を見直しておくこと。約45分間。 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：18歳からの「大学の学び」基礎講座、向後千春 著 北大路書房 参考書：講義等で随時紹介いたします。 | |
| オフィス・アワー | 星野：授業の前後、昼休み、4号館7階研究室 峯村：授業の前後、昼休み、4号館8階研究室 竹居田：昼休み、研究室 | |
| 国家試験出題基準 | | |
| 履修条件・履修上の注意 | 講義資料はActive Academy上で配布しますので、各自プリントアウトして授業に持ってきてください。配布期間は授業の前後1週間。 | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・課題提出に際し、発見学習を取り入れて実施。 ・ロールプレイ、グループワークを取り入れて実施。 | |

| | | | |
|--------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 2学年 | 2単位 | 選択 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 竹居田 幸仁 | | | |

| | | | |
|------|-------------------------------------|--|--------|
| 授業形態 | 講義を中心とし、随時10分程度の小演習（個別・グループ）も取り入れる。 | | 担当者 |
| 授業計画 | 第1回 | <p>学習心理学の歴史 一般に学習というと、学校における教科学習を想像するが、心理学において学習とは「経験によって生ずる行動の変容」と定義される。本講義では学習心理学の歴史を学び、学習心理学の2つの理論体系について理解する。</p> <p>key words：心理学実験室，行動主義，新行動主義</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第2回 | <p>学習の基礎 行動の変容について、遺伝的なものは成熟であり、経験によるものは学習である。経験による行動の変容である学習を生じさせるための手続きが「条件づけ」である。 本講義では様々な条件づけについて学び、日常生活で応用できる場面がないかを考察する。</p> <p>key words：古典的条件づけ，オペラント条件づけ，三項随伴性，強化と弱化</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第3回 | <p>技能学習と熟達化 技能学習とは、知覚系（環境情報の認知）と運動系（中枢からの骨格筋のコントロール）を協応させる学習である。本講義では、様々な技能学習と、その熟達化の方法について学ぶ。</p> <p>key words：技能学習，運動プログラム，学習曲線，熟達化</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第4回 | <p>社会的学習 社会的学習とは、社会のメンバーとして適切な行動がとれるよう、他者の影響を受けて、文化、慣習、規範、態度、価値観、言語、行動などを習得することである。ヒトは経験の中から様々なことを「学習」するが、このメカニズムに関する理論はこれまでに多数積み重ねられてきている。本講義では、社会的学習に関する理論を学び、日常生活において見られる社会的学習を探索する。</p> <p>key words：社会的学習，観察学習，モデリング，自己効力感，道徳的不活性化</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第5回 | <p>問題解決と学習の転移 問題解決を考えるためには、「問題」とは何か、「解決」とは何かを明確にする必要がある。本講義では、認知心理学における問題解決について理解し、日常生活で遭遇する様々な問題の解決方法について検討する。</p> <p>key words：初期状態，目標状態，オペレータ，問題スキーマ，類似，転移</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第6回 | <p>動機づけ 動機づけとは、行動や思考を喚起し、方向づけ、持続させ、完了へと導く心の働きである。動機づけは日々の生活の中で「意欲」や「やる気」などと呼ばれるものと対応した概念である。学習との関係の中での動機づけは、学習された行動の目標達成に向けた遂行や新しい行動の学習を促す心の働きと捉えられる。本講義では、動機づけの源と捉えられる欲求の類型について触れた後、動機づけの始発・維持および動機づけられた行動の推敲・制御に関わる処理過程について概観する。</p> <p>key words：動機づけ，欲求，内発的・外発的動機づけ，期待，価値，原因帰属，自己制御，認知コントロール</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第7回 | <p>認知心理学の歴史 認知心理学で扱われている対象については、古くから言及されている。例えば、古代ギリシャの哲学者プラトンやアリストテレスなどによっても人間の記憶の性質について語られている。しかし、認知に関する科学的研究の取り組みが開始されたのは19世紀に入ってからである。本講義では認知心理学の歴史を概観する。</p> <p>key words：ライプチヒ大学，ゲシュタルト心理学，行動主義，新行動主義，認知地図</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第8回 | <p>感覚 ヒトは思考し行動するために、まず感覚のプロセスによって外界からの情報を得る。本講義ではヒトの感覚プロセスや神経活動について理解し、それがどのように情動を引き起こしたり、行動のための運動システムに利用されるかを考察する。</p> <p>key words：視覚，聴覚，体性感覚，触覚，嗅覚，味覚，閾，多感覚統合</p> | 竹居田 幸仁 |

| | | |
|--------------|---|---|
| | <p>第9回 視知覚 我々は、視覚によって外界の様子を素早く知り、行動し、または文字などの情報をものに意味的な理解を行うこともできる。本講義では、眼を通じて得た視覚情報を元に外界を知覚・認識する基礎的な働きについて解説をする。</p> <p>key words : 網膜, 錐体, 明るさ, 色, 恒常性, 顔の認識, 物体認識, 空間の近く, 奥行き, 両眼立体視, 運動, バイオロジカル・モーション</p> <p>第10回 聴知覚 我々の知覚は性質の異なる刺激を同時に受け入れることによって、様々な環境において、できるだけ多くの情報を素早く外界から得ようとしている。その中で、我々が生きていくうえで、聴覚が重要な役割を果たしている場面は多い。本講義ではまず、音の物理的な性質について理解をし、聴覚仕組みや音声の知覚について概観する。</p> <p>key words : 波形, スペクトル, 等間隔曲線, 補充現象, ソーン尺度, マスキング, 周期性, 両耳間時間差, 両耳間音圧差, 先行音効果, 聴覚情景分析</p> <p>第11回 感性 心理学において、「感性」という心の機能はどのように位置づけられるのであろうか。心理学の研究対象としての感性を語る際、感性は感性以外の心の機能との関係性の中で定期されるべきである。本講義では、何をどのように明らかにする研究活動が感性研究なのか、感性は他の心の機能とどう違うのかを検討する。</p> <p>key words : 感性, 印象, 曖昧さ, 想像, 見立て</p> <p>第12回 注意 我々の認知システムの処理能力（処理容量ともいう）には限界がある。身の周りにはあるたくさんの情報のうち、一度に処理できるのはその一部であり、情報を取捨選択しなければならない。この時、情報の取捨選択に関わる働きを「注意」という。本講義では、「注意」には単一の機能ではなく、いくつもの側面があり、それぞれが異なる特性を持つことを学ぶ。</p> <p>key words : 注意, 意識, 無意識, ワーキングメモリ, トップダウン, ボトムアップ, 処理資源</p> <p>第13回 記憶 我々は外界の情報を取り入れ（記銘）、一定期間覚えておき（保持）、それを必要に応じて思い出す（想起）。この一連の心的過程やその内容を記憶という。この心的過程は、記銘に際して外界の情報を心内表現に変換する符号化（encoding）、その結果を保持する貯蔵（storage）、保持している内容を想起する検索（retrieval）という3つの段階からなる。本講義では、記憶の構造やシステム、記憶の種類、ワーキングメモリ、処理水準などについて概観する。</p> <p>key words : 感覚記憶, 短期記憶, 長期記憶, ワーキングメモリ, 処理水準説, 偽りの記憶, 回復された記憶</p> <p>第14回 認知の個人差 知覚や認知の研究では、ヒトが普遍的に持っている機能を明らかにするものが殆どで、個人差そのものに焦点が当てられることは少ない。個人差に焦点を当てる研究分野は差異心理学（differential psychology）と呼ばれている。本講義では、報告例が少ない「認知」に関する個人差に関する研究例を紹介し、今後の展望を行う。</p> <p>key words : 個人差, 差異心理学, 知能, 感情知性, ストループ干渉, 逆ストループ干渉</p> <p>第15回 知覚・認知の障害 高次脳機能障害は脳が損傷を受けたことによって生じるが、その症状の中には知覚や認知に関するものがある。本講義では知覚・認知の障害の症状を概観し、その支援方法について検討する。</p> <p>key words : 統覚型視覚失認, 連合型視覚失認, 半側空間無視, 半側身体失認, 前向き健忘, 逆行性健忘,</p> | <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> |
| <p>科目の目的</p> | <p>一般に学習というと、学校における教科学習を想像するが、心理学において学習とは「経験によって生ずる行動の変容」と定義される。本講義では、行動主義が提唱した学習原理と、社会的学習理論という2つの理論体系について理解することを目的とする。</p> <p>また、人間のこころについて、認知機能の側面から理解し、思考・言語の理解・産出・獲得、人間の記憶など、認知機能に関する理論・仮説や研究方法を理解し、人間の認知機能について概説できるようにすることも目的とする。</p> <p>ディプロマポリシー：【倫理観と幅広い教養】【基本的知識と技術】【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】【自己研鑽・探求力】</p> | |
| <p>到達目標</p> | <p>1. 行動の心理学の基本的な考え方と学習心理学の原理を理解し、説明することができる。 2. ヒトを含む動物の行動に興味を持ち、根拠を持って心と行動の素朴な関連性を疑うことができる。 3. 記憶や注意などの心理学的概念を理解することができる。 4. 言語に関連する認知心理学的知見を理解することができる。</p> | |
| <p>関連科目</p> | <p>心理学, 臨床心理学, 教育心理学, 心理測定法, 人間関係コミュニケーション論</p> | |

| | |
|-------------------------|--|
| 成績評価方法・基準 | 定期試験（レポート形式・50％）に、毎回の受講後に作成する小レポートの評価（50％）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。 |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。 講義資料は、概ね講義の1週間前までにActive Academyにて配布するので、各自ダウンロードしておくこと。 |
| 教科書・参考書 | 【教科書】 なし。その都度資料を配布する。 【参考書】 箱田裕司（編） 『公認心理師の基礎と実践7 知覚・認知心理学』 遠見書房 楠見孝（編） 『公認心理師の基礎と実践8 学習・言語心理学』 遠見書房 |
| オフィス・アワー | 講義後の教室において、もしくは事前にe-mailで予約のうえ、随時対応します。 |
| 国家試験出題基準 | なし |
| 履修条件・履修上の注意 | 講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。 |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 約30分の体験学習を2回程度行う予定である。 |

| | | | |
|--------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 2学年 | 2単位 | 選択 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 竹居田 幸仁 | | | |

| | | | |
|------|--|--|--------|
| 授業形態 | 講義形態が中心であるが、講義の後半では主にExcelを利用した統計処理の演習を行う。 | | 担当者 |
| 授業計画 | 第1回 | <p>オリエンテーション 心理学の歴史を知ることを通じて、心理測定法の意義を学ぶ。</p> <p>key words：心理測定法，心理学研究法</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第2回 | <p>心理物理学的測定法 精神物理学的測定法で測定される刺激閾，弁別閾，主観的等価値などを学習し，閾値の概念について詳細に検討する。</p> <p>key words：精神物理学的測定法，閾値の測定</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第3回 | <p>データの種類の識別する われわれは，自分が問題とする現象・事象について実験や調査，検査，観察を行ってデータを得る。そしてそのデータを処理して，なにがしかの所見を得ようとする。しかし，どのような方法で処理するかは，データの種類によって異なる。本講義では，データ処理のために適当な方法を適用するために，自分のデータがどのような性質を持つかを識別できるようにすることを目指す。</p> <p>key words：名義尺度，順序尺度，間隔尺度，比率尺度</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第4回 | <p>データを入力する データを分析するためには，標本集団から得られたデータを何らかの基準に従って数値化し，整理する必要がある。これはまず表の形にまとめられるが，この加工や編集をされていないデータを原データ（粗データ，素データ，raw data）という。本講義ではデータ処理の手始めとして，実験記録，観察記録，質問紙等で捉えた被験者（被検者，被調査者）の反応—原データをExcelに入力する演習を行う。</p> <p>key words：実験，観察，質問紙調査，原データ</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第5回 | <p>データを編集する データ処理の過程で，入力した値や算出した値に様々な手を加えて，新しい値を与えることがある。最も単純な加工としては，数値を四捨五入して適当な位に丸めたり，文字データを数値データに置き換えたり，いくつかの変数の合計値を求めたりといった作業が挙げられる。やや複雑な加工としては，標準化をしたり，対数変換，角変換等を行うことがある。本講義では，Excelでこれらの加工の演習を行う。</p> <p>key words：データの編集，データを丸める，データの変換，標準化</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第6回 | <p>データを集計し特徴を記述する データを集計する際，最も基本的な処理は，ある変数の値に従って観測を並べ替えることである。出席番号順に並べたり，肥満度の順番に個人を並べ替えたり，性別でグループ分けをしたりといった処理が該当する。本講義では，Excelを用いて様々なデータの集計方法についての演習を行う。</p> <p>key words：データの並べ替え，度数分布表，クロス集計，平均値，中央値，最頻値，散布度，GP分析</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第7回 | <p>グラフに表す 原データについてグラフを描くと，データの分布が概観できる。次の段階では，原データの集計表から度数を計測したり平均値等を算出し，標本の特徴について記述し，さらに高度・複雑な分析を施すこともある。本講義では，Excelを用い，様々なデータをグラフで表す演習を行う。</p> <p>key words：原データのグラフ化，グラフウィザード，ラベル，目盛線</p> | 竹居田 幸仁 |
| | 第8回 | <p>統計的検討① 表やグラフから傾向を読み取られた所見は，研究者自身の“読み”によるもので，そのような主観的な所見から示唆される差異や関係は，確率的に見て差がある，関係があると言えるのかどうかを数字の上で裏付ける必要がある。これが統計的検定と言われるものである。 本講義では，帰無仮説について学び，Excelを用いて二項検定やカイ二乗検定などの演習を行う。</p> <p>key words：帰無仮説，有意水準，二項検定，カイ二乗検定，自由度</p> | 竹居田 幸仁 |

| | | |
|-------------------------|--|---|
| | <p>第9回 統計的検討② 2つの条件下において同一の測定・調査を行い、その条件感で測定値（平均値）に差があるかどうかを検定する方法について学ぶ。 講義の後半では、Excelを用い、F検定、t検定の演習を行う。</p> <p>key words : F検定, 等分散, 対応のあるt検定, 対応のないt検定</p> <p>第10回 統計的検討? 心理学実験で得られる測定値には、通常多くの変動バラつきが見られる。この変動がどのような要因（条件、変数）によって説明されるかを知るために、いくつかの影響因子をあらかじめ設定し、その要因が、偶然誤差による変動を見込んだ上でも、測定値全体の変動に影響を与えているのかどうかを検討する方法である分散分析について学ぶ。 講義の後半では、Excelを用い、様々な分散分析の演習を行う。</p> <p>key words : 分散分析, 一元配置, 繰り返しのある二元配置, 繰り返しのない二元配置</p> <p>第11回 類似性・関係の程度を数値で表す 2つの事象の間になんらかの関係ー共変関係, 因果関係, 一致, 類似などーが想定される場合がある。そのような関係の有無を検討するために、関係の程度を数値化する試みがなされている。これが相関係数である。本講義では、距離尺度を構成する2つの変量間の関連の程度を表す時に適用するピアソンの積率相関係数について学ぶ。 講義の後半では、Excelを用いて2変量間の相関係数を求める演習を行う。</p> <p>key words : ピアソンの積率相関係数, 因果関係はない, 有意水準,</p> <p>第12回 多変量を集約する 人の傾向を測る時、「ものさし」が一つでは、見落としている側面があるのではないかと危惧される。本講義では、まず、問題としている特性に関連すると思われる「ものさし」を多数あてはめ、その特性を測ろうとする重回帰分析について学ぶ。更に、多くの反応指標が同時に得られる場合、外的基準は存在せず、変量（尺度）間の相関係数からそれらの構造的関連を分析する方法である因子分析についても学習する。 講義後半では、Excelを用い、これらの分析方法について演習を行う。</p> <p>第13回 発達検査 発達検査とは、乳幼児の精神 発達（運動・身辺自立・言語・社会性など）の程度を測定する検査である。本講義では、わが国で使用されている代表的な発達検査を紹介し、講義後半ではその一部を体験する演習を行う。</p> <p>key words : 新版K式発達検査2020, 遠城寺式乳幼児分析的発達検査法, デンバー発達判定法</p> <p>第14回 知能検査① ウェクスラーが知能を「目的的に行動し、合理的に思考し、能率的にその環境を処理しうる総合的・全体的能力」と定義している通り、知能とは単に頭の良さや勉強の出来具合を示す指標ではない。そして、知能検査とは、知能の程度を客観的・科学的に測定する検査である。 本講義では、わが国で使用されている代表的な知能検査の一つである田中ビネーV知能検査について紹介し、一部、実施の演習を行う。</p> <p>key words : 知能, 田中ビネーV知能検査, 鈴木ビネー検査</p> <p>第15回 知能検査② 本講義では、世界的に使用されているウェクスラー系の知能検査（成人用であるWAIS-IVおよび児童用であるWISC-IV・WISC-V）について紹介し、一部、実施の演習を行う。</p> <p>key words : WAIS-IV, WISC-IV, WISC-V</p> | <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> |
| 科目の目的 | <p>心理学の領域では心に関する現象をデータに基づいて科学的に検証するために、様々な測定法が開発されてきた。この講義では、各測定法の方法論や特徴を学ぶことを通じて、データを読み解くための方法を理解することを目指す。</p> <p>ディプロマポリシー：【倫理観と幅広い教養】 【基本的知識と技術】 【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】 【自己研鑽・探求力】</p> | |
| 到達目標 | <p>1. 心理学研究の基礎をなす測定法の理論や具体的測定方法について理解する。 2. 測定することの意味や各研究領域を代表する測定方法について理解を深め、将来研究を企画する際の基礎知識を身に着ける。</p> | |
| 関連科目 | <p>心理学, 臨床心理学, 教育心理学, 学習・認知心理学, 人間関係コミュニケーション論</p> | |
| 成績評価方法・基準 | <p>定期試験（レポート形式・50%）に、毎回の受講後に作成する小レポートの評価（50%）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。</p> | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | <p>準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。 講義資料は、概ね講義の1週間前までにActive Academyにて配布するので、各自ダウンロードしておくこと。</p> | |

| | |
|----------------|--|
| 教科書・参考書 | <p>【教科書】 遠藤健治 『Excelによるデータ処理入門ー集計から編集，要約，グラフ化，検定〔増補改訂版〕』 までー</p> <p>【参考書】 南風原朝和 『心理統計学の基礎』 有斐閣アルマ 山田弘幸（編） 『言語聴覚士のための心理学』 医歯薬出版株式会社</p> |
| オフィス・アワー | 講義後の教室において，もしくは事前にe-mailで予約のうえ，随時対応します。 |
| 国家試験出題基準 | なし |
| 履修条件・履修上の注意 | 講義中の私語，スマートフォン・携帯電話の使用，講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や，それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ，その回の講義の出席を認めない場合もあります。 |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 毎回の講義で30分程度の体験学習を行う。 |

講義科目名称： 行動科学とりハビリテーション

授業コード： 4P057

英文科目名称： Behavioral Science and Rehabilitation

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|-------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 3学年 | 1単位 | 選択 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 岡崎 大資 | | | |

| | | |
|-------------------------|---|--|
| 授業形態 | 講義8回 | 担当者 |
| 授業計画 | 1. 講義 オリエンテーション、行動科学とは 2. 講義 社会心理学、認知心理学の概説 3. 講義 行動分析学の概説 4. 講義 行動療法の実際 5. 講義 認知行動療法の実際 6. 講義 アクセプタンス&コミットメント・セラピーの実際 7. 講義 事例1 意欲のない対象者への介入方法 8. 講義 事例2 思考にとらわれた対象者への介入方法 | 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 |
| 科目の目的 | 行動科学とは、人のさまざまな行動を科学的に探究する学問である。リハビリテーションの対象者への支援において必要となる社会心理学、認知心理学、行動分析学などの心理学を概説し、それらの知識を基盤とした行動療法、認知行動療法、アクセプタンス&コミットメント・セラピーとしての介入の重要性について講義する。また、保健医療福祉の現場における事例検討を通して、リハビリテーションにおける行動科学的介入方法を講義する。 | |
| 到達目標 | 1. リハビリテーション領域における行動科学の重要性を説明できる。 2. 社会心理学、認知心理学、行動分析学の概略を説明できる。 3. 認知行動療法、行動療法、アクセプタンス&コミットメント・セラピーなどの具体的実践方法の概略を理解する。 4. 事例検討を通して、保健医療福祉の現場における行動科学的介入方法を理解する。 | |
| 関連科目 | 生涯発達心理学、学習・認知心理学、心理測定法、リハビリテーション概論、臨床心理学 | |
| 成績評価方法・基準 | レポート100% | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 前回の講義との関連性を事前に理解して講義に臨むこと。必要な予復習時間の目安は30分程度とする。 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：指定しない。必要な資料を準備する。 参考書：指定しない。 | |
| オフィス・アワー | 月曜日 13時-14時 | |
| 国家試験出題基準 | 《専門基礎》-II-5-A-b~c | |
| 履修条件・履修上の注意 | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 実施なし | |

講義科目名称： 病理学

授業コード： 4P058

英文科目名称： Pathology

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|-------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 1学年 | 2単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 田村 遵一 | | | |

| 授業形態 | 講義 | 担当者 |
|-------------------------|--|--|
| 授業計画 | 第1回 病理学序論・医学における病理学の位置付け 病理学の定義と他領域との関連性 第2回 病理学の基本四分類と細胞障害 アポトーシス、壊死 第3回 炎症（基礎編） 炎症の原因と変化 第4回 腫瘍（基礎編） 腫瘍の特徴と分類 第5回 循環障害（基礎編） 循環障害の原因と結果 第6回 変性（基礎編） 代謝異常、 第7回 遺伝子と免疫の異常（基礎編） 遺伝病、自己免疫疾患等 第8回 病理学まとめ（中間） これまでに学んだ病理学等について小論文を作成 第9回 炎症（応用編） 代表的な炎症性疾患について概説 第10回 腫瘍（応用編）1 代表的な腫瘍とその診断、治療法について概説 第11回 腫瘍（応用編）2 代表的な腫瘍とその診断、治療法について概説 第12回 循環障害（応用編） 代表的な循環障害について概説 第13回 変性（応用編） 脳神経変性疾患 第14回 遺伝性疾患、免疫疾患（応用編） 代表的な遺伝性疾患、免疫疾患を紹介 第15回 病理学総まとめ（期末） 本講義で習得した病理学の知識等について最終的に小論文を作成する。 | 田村遵一 田村遵一 田村遵一 田村遵一 田村遵一 田村遵一 田村遵一 田村遵一 田村遵一 田村遵一 田村遵一 田村遵一 田村遵一 田村遵一 田村遵一 田村遵一 |
| 科目の目的 | 病理学とは疾病の原因、発生メカニズムなど、疾病の本態を解明する学問である。病理学総論として代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍について疾病で生じる変化、経過、疾病の予後を捉え、理解ができるようにする。【倫理観と幅広い教養】【基本的知識と技術】【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】【自己研鑽・探求力】 | |
| 到達目標 | 1. 疾病の原因、経過、治療法、予後を説明できる。 2. 疾病の検査事項を説明できる。 3. 疾病の病理所見を説明できる。 | |
| 関連科目 | 解剖学総論 | |
| 成績評価方法・基準 | 定期試験成績（80％）と出席点（20％）成績を評価する。試験形態は筆記試験とする。 | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 各回の授業内容について予習、復習を行うこと。準備学習に必要な時間は1時間程度とする。 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：講師が配布する資料（授業ごとに配布する） 参考書：なるほどなっとく！病理学 病態形成の基本的な仕組み 小林正伸著 南山堂 | |
| オフィス・アワー | 講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。 | |
| 国家試験出題基準 | 《専門基礎》-II-2-A~C | |
| 履修条件・履修上の注意 | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 特になし | |

| | | | |
|------|-------|--------|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 3学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 佐藤 満 | 藤本 友香 | 高橋 あゆ子 | 萩原 英子 |
| | 佐藤 満 | | |

| | | |
|-------------------------|---|---|
| 授業形態 | 講義15コマ | 担当者 |
| 授業計画 | <p>第1回 理学療法士と作業療法士の臨床と救急・免疫・感染 これらの知識と技術がなぜ必要で、どう役立つのか</p> <p>第2回 免疫学総論Ⅰ 主に自然免疫について</p> <p>第3回 免疫学総論Ⅱ 主に獲得免疫について</p> <p>第4回 免疫異常症各論Ⅰその1 免疫不全とアレルギーについて</p> <p>第5回 免疫異常症各論Ⅰその2 免疫不全とアレルギーについて</p> <p>第6回 免疫異常症各論Ⅱその1 自己免疫疾患の定義と分類、自己抗体の種類、主な自己免疫疾患の病態など</p> <p>第7回 免疫異常症各論Ⅱその2 自己免疫疾患の定義と分類、自己抗体の種類、主な自己免疫疾患の病態など</p> <p>第8回 感染症総論 感染症の定義、感染経路、院内感染、感染対策など</p> <p>第9回 細菌感染症総論 細菌の特徴と分類、抗菌薬の分類、薬剤耐性メカニズムなど</p> <p>第10回 細菌感染症各論Ⅰ 主に小児の感染症</p> <p>第11回 細菌感染症各論Ⅱ 主に成人の感染症</p> <p>第12回 ウイルスと真菌感染症総論 ウイルスの特徴と種類、抗ウイルス薬の分類、ウイルス感染のメカニズム、真菌症 についてなど</p> <p>第13回 BLS実習ウイルスと真菌感染症各論 主なウイルスと真菌感染症など</p> <p>第14回 救急医療の概念 我が国における救急医療の概要及び救急患者とその家族の特徴について学習する</p> <p>第15回 救急医療の現場で理学療法士・作業療法士に求められる知識と役割 主要な病態に対する観察、アセスメントと救急処置について学習する</p> | <p>佐藤</p> <p>藤本</p> <p>藤本</p> <p>藤本</p> <p>藤本</p> <p>藤本</p> <p>藤本</p> <p>高橋</p> <p>高橋</p> <p>藤本</p> <p>藤本</p> <p>藤本</p> <p>藤本</p> <p>萩原</p> <p>萩原</p> |
| 科目の目的 | <p>[免疫・感染症] 生体防御機構を中心とした免疫システムの基礎知識を習得し、免疫異常症の理解を深める。また、細菌やウイルスを中心とした病原体による感染症の種類、感染経路、感染予防法など臨床現場で必要となる感染における知識を身につける。</p> <p>[救急法] 提供者と受益者の視点から見た日本の救急医療の特徴、救急医療における理学療法士、作業療法士の役割を理解する。傷病者の反応の確認と救急処置の実践について理解を深める。</p> <p>【倫理観と幅広い教養】【基本的知識と技術】【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】 【自己研鑽・探求力】</p> | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞性免疫と液性免疫を理解する 2. 自己免疫疾患と自己抗体の関係を理解する 3. アレルギーの種類と特徴を理解する 4. 主な細菌感染症とウイルス感染症について理解する 5. 感染経路と感染対策法を理解する。 6. 急激に生命が危険にさらされる呼吸器障害・心血管障害・脳血管障害が説明できる。 7. 救命の連鎖について説明できる。 | |
| 関連科目 | <p>[免疫・感染症] 生理学Ⅰ・生理学Ⅱ・病理学・内科学 [救急法] 臓器解剖学・運動器解剖学・生理学Ⅰ・生理学Ⅱ・病理学・公衆衛生学</p> | |
| 成績評価方法・基準 | <p>[免疫・感染症] 定期試験 (80%) [救急法] 定期試験 (20%)</p> | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | <p>毎回の講義で学んだことをよく復習することが望ましい。学習時間の目安は概ね1時間。</p> | |
| 教科書・参考書 | <p>[免疫・感染症] 教科書：病気が見える⑥ 免疫・膠原病・感染症 (メディックメディア) 参考書：「わかる 身につく 病原体・感染・免疫」(南山堂)</p> <p>[救急法] 教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。</p> | |
| オフィス・アワー | <p>すべての講義担当者：講義終了後</p> | |

| | |
|----------------|--|
| 国家試験出題基準 | 《専門基礎》-II-3-E, 《専門基礎》-II-12-A-a~b, 《専門基礎》-II-12-B-a~b, 《専門基礎》-II-12-C-a~b, 《専門基礎》-II-12-D-a~b, 《専門基礎》-II-12-E-a~b, 《専門基礎》-III-1-A-h, 《専門》-III-8-I, 《専門》-IV-9-I, 《専門》-V-3-A~B |
| 履修条件・履修上の注意 | 特になし |
| アクティブ・ラーニングの実施 | なし |

| | | | |
|------|-------|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 3学年 | 2単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 木村 朗 | 田辺 将也 | | |

| 授業形態 | 講義1-15コマ | 担当者 |
|-------|---|--|
| 授業計画 | <p>1 第1部 緩和医療学総論 (斉藤 龍生) 緩和医療の歴史と緩和医療の基本的考え方を講義すると共に、がん患者さんが抱えている問題点を提示します。その中で、「末期がんの患者さんと如何に話すか?」、「患者さんが人間らしく生きるために何が出来るか?」について、一緒に考えていく講義を予定しています。患者さんとのコミュニケーションスキルの向上を目指し、基本的な技術を紹介いたします。</p> <p>2 第1部 緩和医学各論 (小林 剛) 疼痛緩和 疼痛の考え方 鎮痛剤の使い方・副作用対策</p> <p>3 第1部 緩和医学各論 (小林 剛) オピオイドローテーションについて 事例を提示し疼痛緩和について考えていく</p> <p>4 第1部 緩和ケアの実際 ・疼痛緩和の看護 (本多) 疼痛マネジメントにおける看護の役割について 効果的な疼痛マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく</p> <p>5 第1部 緩和ケアの実際 ・他の症状緩和の看護 ・全人的苦痛の緩和 (本多) 他の症状マネジメントにおける看護の役割 効果的な疼痛マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく 全人的苦痛の緩和 精神的苦痛と霊的苦痛 (スピリチュアルペイン) のケアについて</p> <p>6 第1部 緩和ケアの実際 ・家族ケア ・遺族ケア (本多) 緩和ケア病棟における終末期患者の家族ケアと遺族ケアの実際について</p> <p>7 第1部 緩和的リハビリテーション 緩和医療におけるチームアプローチ (本多) 緩和ケア病棟における終末期患者のリハビリテーション 緩和ケア病棟におけるチーム医療 チームにおける看護の役割と多職種との役割と機能</p> <p>8 第1部 第一部のまとめ もし、あなたが今、肺がんの末期と診断された場合、何をどう考えどのようにしたいですか。また、残された時間をどのように過ごしたいですか。(死生観)</p> <p>9 第2部 悪性腫瘍のリハビリテーション (木村 朗) 悪性腫瘍 (ガン) のリハビリテーションについて 過去と現在を概観する</p> <p>10 第2部 緩和医療とリハ総論 (木村 朗) 緩和医療 (ケア) の歴史 リハビリテーションの理念と緩和医療の接点 ライフサイクルと終末期、生死学</p> <p>11 第2部 緩和医療とリハ 各論 1 (木村 朗) 疼痛緩和 疼痛の考え方1 鎮痛剤、除痛ラダー、鎮静について 終末期の理学療法介入の実際 死を目前にした人との会話について 緩和ケア病棟での事例 (障害別) を提示し、理学療法の役割について考える 緩和ケアにおけるチーム医療 心の苦痛 全人的苦痛の緩和 精神的苦痛と霊的苦痛 (スピリチュアルペイン) について 緩和ケア病棟における終末期患者の家族ケアと遺族ケアの実際について</p> <p>12 第2部 緩和医療とリハ 各論 2 (木村 朗 田辺) 終末期の理学療法介入の実際 疼痛の考え方2 死を目前にした人との会話について 緩和ケア病棟での事例 (障害別) を提示し、理学療法の役割について考える 緩和ケアにおけるチーム医療</p> <p>13 第2部 理学療法実技 (木村 朗、田辺) 体位排痰およびポジショニング 呼吸介助 浮腫に対するリンパマッサージ</p> <p>14 第2部 緩和医療とリハ 各論 3 (木村 朗) ALSとコミュニケーションエイド</p> <p>15 第2部 緩和医療とリハ 各論 4 (木村 朗) 看取り</p> | <p>斉藤 龍生</p> <p>小林 剛</p> <p>小林 剛</p> <p>本多</p> <p>本多</p> <p>本多</p> <p>本多</p> <p>本多</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗 田辺 将也</p> <p>木村 朗 田辺 将也</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> |
| 科目の目的 | <p>第一部では、緩和医療 (ケア) について、終末期に限らず医療のさまざまな分野が必要であることが認識され、癌医療における早期導入、慢性疾患への対応など応用範囲が広がりつつあることを中心に、がん患者への積極的な全人的医療として身体的・精神的・社会的・霊的苦痛の緩和、家族・遺族への支援についての理論や援助方法を学習する。また、チーム医療の必要性、緩和ケア・ホスピスケアの実際、チームにおける多職種の役割や機能について学習する。 【倫理観と幅広い教養】【基本的知識と技術】【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】 【自己研鑽・探求力】を滋養する。</p> <p>第二部では、最初に悪性腫瘍 (ガン) のリハビリテーションについてその概要を示し、他疾患との</p> | |

| | |
|-------------------------|--|
| | 相違、特徴などを理解する。実際の緩和医療の現場で活躍する理学療法士・作業療法士を講師に迎え、リハビリテーションの視点から、緩和医療・終末期医療の歴史と現状、ホスピス医療の実際について学習する。また、緩和医療における理学療法介入の技術を学習する。 DPとの関連：「知識・理解」に対応。 |
| 到達目標 | 緩和医療（ケア）の歴史と緩和医療（ケア）の基本的考えを理解する。緩和医療を取り巻くシステムと問題点を知る。緩和医療における治療理念と倫理的問題を含め治療方法および援助方法を理解する。終末期における心理的問題と家族ケア遺族ケアの重要性を理解する。緩和ケアにおけるチーム医療の必要性とチームにおける多職種の役割や機能について理解する。リハビリテーション医療と緩和医療の接点について理解する。疼痛について理解する。理学療法介入の実際について知る。地域・在宅での緩和医療におけるリハビリテーション介入の実際を知る。学部カリキュラムポリシー4、及び学科では3に該当するポリシーに含まれることを理解する。 |
| 関連科目 | 関連し合う科目－生命倫理、地域社会学、臨床心理学、リハビリテーション工学、栄養学、カウンセリング、社会福祉・地域サービス論、リハビリテーション関連領域論 この科目が基礎となる科目－理学療法管理学 |
| 成績評価方法・基準 | レポート50%、授業中の課題25%、共通試験25%（5月29日 訂正） |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 生と死ということについて、各自考えておくこと。90分以上を目安とする。準備学習時間の設定が困難である。 |
| 教科書・参考書 | 教科書 指定せず 参考書 Elisabeth Kübler-Ross：死ぬ瞬間-死とその過程について（中公文庫）．中央公論新社。 石飛 幸三：「平穏死」のすすめ 口から食べられなくなったらどうしますか．講談社 聖路加国際病院看護部緩和ケア検討会症状マネジメントグループ：がん疼痛マネジメントマニュアル．医学書院 |
| オフィス・アワー | 火or水12:10～12:50(木村研究室) |
| 国家試験出題基準 | 《専門基礎》-II-13-A-a～i，《専門基礎》-II-13-B-a～i，《専門基礎》-II-13-C-a～i，《専門基礎》-II-13-D-a～i，《専門基礎》-II-13-E-a～i，《専門基礎》-II-14-A-k，《専門基礎》-II-14-B-k，《専門基礎》-II-14-C-k，《専門基礎》-II-14-D-k，《専門基礎》-II-14-E-k |
| 履修条件・履修上の注意 | 特になし |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 課題を提示するので、それまでに学習した内容を駆使して各自回答を仕上げるセッションを設ける。 |

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|--------|-----|-----|--------|
| 前期 | 2学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 竹居田 幸仁 | | | |

| 授業形態 | 講義（14コマ）、演習（1コマ）。講義中、随時10分程度の小演習（個別・グループ）も取り入れる。 | | 担当者 |
|------|--|--|--------|
| 授業計画 | 第1回 | 臨床心理学とは何か 臨床心理学とは、心の不健康な人々を健康へと導くために、心理学の理論や知識そして心理学的技法を用いて専門的援助を行う心理学の応用的な一分野である。本講義では、臨床心理学の歴史や構造について学ぶ。 | 竹居田 幸仁 |
| | 第2回 | 無意識の心理学（1）精神分析 精神分析とは、オーストリアの神経学者フロイトによって創始された人間の心を研究する方法であり、理論であり、精神疾患や不適応の治療法である。本講義では、心理療法としての精神分析を中心に、その基本概念について学習する。 key words：意識、前意識、無意識、エス（イド）、自我、超自我、エディプス・コンプレックス | 竹居田 幸仁 |
| | 第3回 | 無意識の心理学（2）分析心理学 分析心理学はスイスの精神医学者カール・グスタフ・ユングによって創始された心理学・心理療法であり、一般にユング心理学として知られている。ユングは当初フロイトから強い影響を受けたが、その理論の違いからフロイトと決別することになる。本講義では、フロイトの理論との比較を通してユングの理論について理解を深める。 key words：個人的無意識、普遍的無意識、元型、症状の持つ意味、夢分析 | 竹居田 幸仁 |
| | 第4回 | クライエント中心療法 カール・ロジャースは20世紀アメリカを代表する心理学者の1人である。ロジャースは人間の本質を善ととらえる人間観に基づき、人間の成長力、主体性を重視し、心理療法を「クライエント中心」に進めていくという大きな変革をもたらした。本講義ではロジャースの生涯をたどり、その理論の変遷について理解する。 key words：クライエント中心療法、パーソン・センタード、静かなる革命、受容、共感、自己一致、建設的なパーソナリティ変化が生じるための必要かつ十分な条件 | 竹居田 幸仁 |
| | 第5回 | 臨床心理アセスメント（1） 臨床心理アセスメントは、対象となる事例の心理的側面に関する情報（データ）を収集し、その情報を統合し、事例の心理的問題についての総合的な査定を行う作業である。臨床心理アセスメントが精神医学的診断と同一のものとして混同されることがあるが、本質的には臨床心理アセスメントは精神医学的診断とは異なる特徴を持っている。本講義では、臨床心理アセスメントの技法について学び、精神医学的診断との違いについて理解を深める。 key words：面接法、観察法、検査法 | 竹居田 幸仁 |
| | 第6回 | こころの問題を理解する（1）「不安症／不安障害（神経症）」 不安症／不安障害（神経症）は主に心理的原因によって生じる心身の機能障害の総称であり、精神病とは異なる。本講義では不安症の種類や支援の方法について学び、理解を深める。 key words：分離不安症、選択制緘黙、限局性恐怖症、社交不安症、パニック症、広場恐怖症、全般不安症 | 竹居田 幸仁 |
| | 第7回 | こころの問題を理解する（2）「身体症状症と解離性同一症／解離性同一性障害」 神経症（ノイローゼ）の一類型として扱われていた「ヒステリー」は、DSM-III以降、ヒステリー概念が排除されたために、「転換ヒステリー」が「身体表現性障害」に、「解離性ヒステリー」は「解離性障害」として改められた。更に、DSM-5では「身体表現性障害」は「身体症状症」に、「解離性障害」は「解離症」に改められた。本講義では両者の下位分類や支援の方法について学び、理解を深める。 key words：身体症状症、転換性障害、病気不安症、解離性健忘、解離性同一症、離人感・現実感消失症 | 竹居田 幸仁 |
| | 第8回 | こころの問題を理解する（3）「摂食障害」 摂食障害は、極端な食事制限や大量の食糧摂取と排出行為など、摂食の問題が含まれる精神疾患であり、1980年代にDSMに登場して以降、先進国を中心に増加している。その背景として、やせを礼賛し体重増加を恐れる文化の影響や母子関係のつまづき等が考えられる。本講義では摂食障害の種類と支援の方法について学び、理解を深める。 key words：神経性やせ症／神経性無職欲症、神経性過食症／神経性大食症 | 竹居田 幸仁 |

| | | |
|------------------|---|---|
| | <p>第9回 こころの問題を理解する(4)「性障害・性別違和」 性に関する問題は周縁的なテーマであると考えられがちで、教科書や講義で取り上げられることはあまりない。そのため、訓練を受けた専門家でも、性の問題に関する知識を十分に持っていない場合がしばしばある。しかし、その一方で性とは、人間のアイデンティティの根幹にあってQOLに重大な影響を及ぼす事柄であり、臨床心理学でも大事なテーマになる。本講義ではDSM-5に収載されている3つの障害について理解を深め、その支援の方法について検討を行う。 key words: 性機能不全, パラフィリア(性嗜好異常), 性別違和</p> <p>第10回 こころの問題を理解する(5)「パーソナリティ障害」 パーソナリティ障害とは、思考・感情・行動などのパターンが平均から著しく逸脱し、社会生活や職業生活に支障をきたしている状態を指し、正常な状態とは言えないが病気であるとも言えない状態である。本講義ではパーソナリティ障害の分類と支援の方法について学び、理解を深める。 key words: 猜疑性/妄想性パーソナリティ障害, シゾイド/スキゾイドパーソナリティ障害, 統合失調型パーソナリティ障害, 境界性パーソナリティ障害, 演技性パーソナリティ障害, 自己愛性パーソナリティ障害, 反社会性パーソナリティ障害, 回避性パーソナリティ障害, 依存性パーソナリティ障害, 強迫性パーソナリティ障害</p> <p>第11回 こころの問題を理解する(6)「気分障害」 人は誰でも気分の浮き沈みを経験するが、うつ病や双極性障害においては、その浮き沈みの程度や期間が著しく、睡眠障害などの身体症状も現れる。本講義ではうつ病・双極性障害の違いとその支援方法について学び、理解を深める。 なお、本講義は初級障がい者スポーツ指導員の基準カリキュラム「各障がいの理解(精神障がい)」に該当する(講義時間は1.5時間) key words: 双極Ⅰ型障害, 双極Ⅱ型障害, うつ病/大うつ病性障害</p> <p>第12回 こころの問題を理解する(7)「統合失調症」 統合失調症は、幻覚や妄想という症状が特徴的な精神疾患である。それに伴って、人々と交流しながら家庭や社会で生活を営む機能が障害を受け(生活の障害)、「感覚・思考・行動が病気のために歪んでいる」ことを自分で振り返って考えることが難しくなりやすい(病識の障害)という特徴を併せもっている。本講義では統合失調症の類型と支援の方法について学び、理解を深める。 なお、本講義は初級障がい者スポーツ指導員の基準カリキュラム「各障がいの理解(精神障がい)」に該当する(講義時間は1.5時間) key words: 緊張型, 解体(破瓜)型, 妄想型</p> <p>第13回 臨床心理アセスメント(2) 質問紙法 質問紙法は、印刷された質問文、またはウェブサイト上の質問文に対して、いくつかの選択肢からあてはまるものを回答する臨床心理アセスメントのための道具である。本講義では、POMS2日本語版を体験し、自分のおかれた条件の下で変化する一時的な気分・感情を測定する。 key words: 質問紙法, POMS2</p> <p>第14回 臨床心理アセスメント(3) 描画法演習 様々な対象を指定して画用紙に絵を描かせる心理検査を「描画法」と総称している。画用紙という環境にいかにか自己表現するかによって、被検査者のパーソナリティの構造や動き具合を測定しようとする検査である。本講義では風景構成法を体験し、その理論や臨床への適応について学ぶ。 key words: 描画法, 風景構成法</p> <p>第15回 総括 これまでの講義を通して学んだ知識や身に着けた技法について振り返り、自らの専門にどのように活かしていくかを検討する。</p> | <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> <p>竹居田 幸仁</p> |
| <p>科目の目的</p> | <p>臨床心理学とは、心の不健康な人々を健康へと導くために、心理学の理論や知識そして心理学的技法を用いて専門的援助を行う心理学の応用的な一分野である。本講義では、臨床心理学の基礎について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。 なお、第11・12回目の講義は初級障がい者スポーツ指導員の基準カリキュラム「各障がいの理解(精神障がい)」に該当する(講義実施時間は合計3.0時間)。 ディプロマポリシー:【倫理観と幅広い教養】【基本的知識と技術】【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】【自己研鑽・探求力】</p> | |
| <p>到達目標</p> | <p>1. 臨床心理学が扱う心の問題と心の正常な機能および問題を軽減して正常化を図る方法としての心理療法の正しい知識を身につけることを通して、人間への深い理解を形成することができる。 2. 人間への深みのある理解を通して、自己理解、他者理解、人間社会の理解を自分の言葉で表現できるようになる。 3. 保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得し、対人支援に活用することができる。 4. 看護場面・治療場面における患者の心理と患者とのコミュニケーションの方法について理解を深め、患者と良好な関係を築けるようになる。</p> | |
| <p>関連科目</p> | <p>【教養・共通基盤科目群】心理学, 教育学, 教育心理学, 生命倫理, 哲学, 人間と宗教, 社会学, 生活文化と医療, 大学の学び入門, 大学の学び—専門への誘い—, 多職種理解と連携 【専門基礎科目群】生理学Ⅰ・Ⅱ, 発達心理学, 公衆衛生学, 保健統計, カウンセリング 【専門科目群】全科目</p> | |
| <p>成績評価方法・基準</p> | <p>定期試験(レポート形式・50%)に、毎回の受講後に作成する小レポートの評価(50%)を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。</p> | |

| | |
|-------------------------|---|
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。 講義資料は、概ね講義の1週間前までにActive Academyにて配布するので、各自ダウンロードし、講義の際はプリントアウトして手元に用意しておくこと。 |
| 教科書・参考書 | 【教科書】 下山晴彦編著（2009）「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房 山祐嗣・山口素子・小林知博編著（2009）「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房 ※ 1年次必修科目「心理学」の教科書 |
| オフィス・アワー | 講義後の教室において、もしくは事前にe-mailで予約のうえ、随時対応します。 |
| 国家試験出題基準 | 《専門基礎》-II-5-A-b～c, 《専門基礎》-II-5-D, 《専門》-I-3-E～F |
| 履修条件・履修上の注意 | 講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。 |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 体験学習（90分のを1回、10分程度のを14回）を行う予定である。 |

講義科目名称： 安全管理

授業コード： 4P076

英文科目名称： Security Management

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|-------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 4学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 田村 遵一 | | | |

| | | |
|-------------------------|------------------------|-----|
| 授業形態 | | 担当者 |
| 授業計画 | ※今年度開講せず（2021年度カリキュラム） | |
| 科目の目的 | | |
| 到達目標 | | |
| 関連科目 | | |
| 成績評価方法・基準 | | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | | |
| 教科書・参考書 | | |
| オフィス・アワー | | |
| 国家試験出題基準 | | |
| 履修条件・履修上の注意 | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | | |

講義科目名称： 社会福祉・地域サービス論

授業コード： 4P078

英文科目名称： Social Welfare and Community Services

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|-------|--------|------|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 2学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 金谷 春代 | 魚屋 真佐江 | 坂井 勉 | |

| 授業形態 | 講義 | 担当者 |
|-------------------------|--|--|
| 授業計画 | <p>第1回 初回授業のため、自己紹介、授業目的、今後の授業の進め方、テキスト説明などのオリエンテーション</p> <p>第2回 社会福祉とは テキストP2からP11まで</p> <p>第3回 日本の社会福祉の歴史 テキストP12からP25まで</p> <p>第4回 社会保障制度と社会福祉を展開する組織 テキストP26からP39まで</p> <p>第5回 子ども福祉 テキストP41からP55まで</p> <p>第6回 障害者福祉 テキストP57からP71まで</p> <p>第7回 高齢者福祉 テキストP73からP84まで</p> <p>第8回 介護保険制度と専門職の役割：チームアプローチの必要性 テキストP86からP102まで</p> <p>第9回 低所得者福祉 テキストP103からP116まで</p> <p>第10回 地域福祉とその推進方法 テキストP117からP129まで</p> <p>第11回 医療福祉・精神保健福祉 テキストP133からP158まで</p> <p>第12回 社会福祉の役割・社会福祉を担う人々 テキストP160からP180まで</p> <p>第13回 相談援助の目的と方法 テキストP181からP188まで</p> <p>第14回 医療ソーシャルワーカーと多職種連携 テキストP194からP201まで</p> <p>第15回 社会福祉を巡る課題とコメディカルに期待される役割・まとめ テキストP202からP207まで</p> | <p>金谷 春代</p> <p>金谷 春代</p> <p>金谷 春代</p> <p>金谷 春代</p> <p>坂井 勉</p> <p>魚屋 真佐江</p> <p>魚屋 真佐江</p> <p>魚屋 真佐江</p> <p>坂井 勉</p> <p>坂井 勉</p> <p>魚屋 真佐江</p> <p>坂井 勉</p> <p>坂井 勉</p> <p>魚屋 真佐江</p> <p>金谷 春代</p> |
| 科目の目的 | 社会福祉的考え方の重要性、人を相手とする職業で必要な人権や権利擁護意識、在宅生活を支える地域包括ケアシステム制度や社会保障制度の理解、地域連携・多職種連携など「連携」の意義について学ぶ。【倫理観と幅広い教養】【基本的知識と技術】【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】【自己研鑽・探求力】 | |
| 到達目標 | 1. 社会福祉全般について理解すること。 2. 人を支援するプロフェッショナルになる自覚を促す。 | |
| 関連科目 | なし | |
| 成績評価方法・基準 | 全講義終了後の筆記試験のみ（100%） | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 事前に次回講義部分を熟読しておくこと。 1コマ約1時間 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：「コメディカルのための社会福祉概論第4版（講談社出版）」ISBN978-4-06-514046-8 参考書：随時配付 | |
| オフィス・アワー | 講義終了後 | |
| 国家試験出題基準 | 《専門基礎》-Ⅲ-1-C～D, 《専門》-Ⅱ-4-A | |
| 履修条件・履修上の注意 | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 実施なし | |

講義科目名称： 理学療法総合演習

授業コード： 4P081

英文科目名称： General Practice of Physiotherapy

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 4学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 目黒 力 | | | |

| | | |
|-------------------------|---|-----|
| 授業形態 | | 担当者 |
| 授業計画 | ※今年度開講せず（2021年度カリキュラム） | |
| 科目の目的 | | |
| 到達目標 | | |
| 関連科目 | | |
| 成績評価方法・基準 | | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | | |
| 教科書・参考書 | | |
| オフィス・アワー | | |
| 国家試験出題基準 | | |
| 履修条件・履修上の注意 | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | |
| 実務経験 | 目黒 力（理学療法士） | |
| 授業の概要 | これまでの学習した理学療法の対象、評価法、介入法について、総合臨床実習Ⅰ及びⅡでの経験を基に、今後職業として実践する理学療法について整理・統合するとともに、専門職としての理学療法のある方、理学療法研究の意味を確認する。 | |

| | | | |
|------|------|-------|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 3学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 木村 朗 | 佐藤 満 | 田辺 将也 | |

| | | | |
|-------------------------|---|--|------------|
| 授業形態 | 講義12コマと演習3コマ | | 担当者 |
| 授業計画 | 第1回 | オリエンテーションと研究とは（木村）【講義】 理学療法の研究の必要性 研究における倫理とは 理学療法で用いられる4大研究手法 実験研究 調査研究 症例研究 疫学研究 基礎研究と臨床研究の別 技術開発研究 | 木村 朗 |
| | 第2回 | 理学療法実験研究基礎1（木村）【講義】 実験計画法とは 特性要因構造の理解 実験研究における計画手法と分散分析1 | 木村 朗 |
| | 第3回 | 理学療法実験研究基礎2（木村）【講義】 実験研究における計画手法と分散分析2 | 木村 朗 |
| | 第4回 | 理学療法実験研究基礎3（木村）【講義】 実験研究における計画手法と分散分析3 | 木村 朗 |
| | 第5回 | 理学療法実験研究基礎4（佐藤）【演習】 実験研究における計画手法と直交表 | 佐藤 木村 朗 |
| | 第6回 | 調査研究基礎1（佐藤）【講義】 調査研究のあらまし アンケート調査法、質問紙法 | 佐藤 木村 朗 |
| | 第7回 | 調査研究基礎2（佐藤）【講義】 SD法、質問一回答の作成法 データセットの作成法 | 佐藤 木村 朗 |
| | 第8回 | 調査研究基礎3（佐藤）【講義】 調査研究におけるフィッシュボーンの考え方 結果系指標と要因系指標 | 佐藤 木村 朗 |
| | 第9回 | 調査研究基礎4（田辺）【演習】 アンケート作成演習1 テーマ設定 グループワーク | 田辺 木村 朗 |
| | 第10回 | 調査研究基礎5（田辺）【演習】 アンケート作成演習2 Rを活用した記述統計演習 重回帰分析演習 | 田辺 木村 朗 |
| | 第11回 | 症例研究基礎1（田辺）【講義】 症例研究とは シングルケーススタディ ケースシリーズスタディ | 田辺 木村 朗 |
| | 第12回 | 症例研究基礎2（田辺）【講義】 ケーススタディ（成功例と苦渋例）の具体例解説 | 田辺 木村 朗 |
| | 第13回 | 疫学研究基礎1（木村）【講義】 集団の健康特性を扱う学問としての疫学 疫学研究とは 疫学研究デザイン PICOの解説 | 木村 朗 |
| | 第14回 | 疫学研究基礎2（木村）【講義】 臨床医学、理学療法研究の読み方（研究疑問、疑問の構造化、オッズを算出し、判断を示す） | 木村 朗 |
| | 第15回 | 研究リテラシー資源と活用法（木村）【講義】 本学 図書館 ネット活用方法など 研究の情報の収集方法、活用方法を学ぶ | 木村 朗 |
| 科目の目的 | 理学療法における研究の意義を理解すること。 生涯にわたり理学療法の改良と人間の健康について探求心をもつこと。 DPとの関連2. 理学療法の実践に向かうための必要な基礎医学、臨床医学、理学療法学の基本的知識及び技術、4. 自己研鑽に励み、自ら疑問や課題を設定し、問題解決のために調査・検討・分析できる能力に対応。 | | |
| 到達目標 | 1. 学生は理学療法士が取り組むべき課題について、研究種別を理解し、それぞれの長所と短所、共有点と特異点が言えるようになること。 2. 学生は理学療法を介する健康課題をテーマとして、その問題の特性、要因について適切な種別を選択することができるようになること。 3. 学生は自ら興味をもった理学療法関連の研究論文を構造的に説明できるようになること。 | | |
| 関連科目 | 運動学、臨床動作分析学、臨床心理学、理学療法概論、基礎理学療法学、理学療法診断学、各系理学療法診断学・治療学、物理療法学、日常生活活動学 | | |
| 成績評価方法・基準 | 試験(75%)、授業振り返りジャーナル(25%) | | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 各回の講義内容部分について、新しく目にした単語・概念・計算式等について、教科書およびWeb上で可能な限り調べ、ノートを準備の上、確認しておく。45分 | | |
| 教科書・参考書 | 教科書：標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法 第3版（医学書院） | | |
| オフィス・アワー | 火or水12:10～12:50(木村研究室) | | |

| | |
|----------------|---|
| 国家試験出題基準 | 《専門基礎》-II-4-A-c, 《専門》-I-2-H |
| 履修条件・履修上の注意 | 演習時には充電を完了したPCを持参すること |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 課題を提示するので、それまでに学習した内容を駆使して各自回答を仕上げるセッションを設ける。 |

| | | | |
|------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 3学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 目黒 力 | 仲保徹 | 富田浩 | |

| | | | |
|-------------------------|---|--|-------|
| 授業形態 | 講義5回 演習3回 | | 担当者 |
| 授業計画 | 第1回 | 生体の何を測るのか 生体計測工学の定義と領域、生体を計測するにあたっての主体について学ぶ | 目黒・富田 |
| | 第2回 | 尺度水準と誤差 様々に計測されたデータを区分すること、誤差について学ぶ | 目黒・富田 |
| | 第3回 | データ処理要領の基本 データの処理方法、分布の形状、図表化について学ぶ | 目黒・富田 |
| | 第4回 | 電気生理学的基礎 生体計測をするにあたって必要な電気とその生理作用について学ぶ | 目黒・富田 |
| | 第5回 | 交流雑音と増幅器 交流雑音の対策、それに対する増幅器の使用方法について学ぶ | 目黒・富田 |
| | 第6回 | 三次元動作解析装置概論 動作解析とその手法ならびに測定手法について学ぶ | 仲保徹 |
| | 第7回 | 三次元動作解析装置演習 1 現在用いられる最もポピュラーな手法である三次元動作解析装置について学ぶ | 仲保徹 |
| | 第8回 | 三次元動作解析装置演習 2 実際に三次元動作解析装置を用いてどのように測定するかその手法を学ぶ | 仲保徹 |
| 科目の目的 | <p>医療の現場や基礎医学の授業・実習で使われるヒトの機能や形態を計測する機器の基本的な原理や使用方法を理解するために、対象から客観的な情報を抽出するために必要な基準と手法、代表的な人間の身体に関する物理量を取り上げ、これら諸量の生理学的意義と計測の目的、計測法の原理などについて学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法に必要な自然科学の学びだけでなく、人間が生み出した文化や歴史、社会の動きと仕組み、生命倫理、コミュニケーションの学びを積み重ねた豊かで幅広い教養 2. 理学療法の実践に向かうための必要な基礎医学、臨床医学、理学療法学の基本的知識及び技術 3. 地域に根差したリハビリテーションの必要性和多職種連携による問題解決の重要性の理解 4. 自己研鑽に励み、自ら疑問や課題を設定し、問題解決のために調査・検討・分析できる能力 | | |
| 到達目標 | 計測はどのように自然を客観的に記述するかを考える基礎的な作業であり、事実仮説を検証するための定量的表現を与える作業である。本講ではまず計測工学の一般的事項として、すべての計測の基礎となる国際単位系 (SI) の定義から出発し、真の値、計測標準、誤差と精度、測定値の不確かさなどの概念を理解する。次に、人間を対象とした計測技術の特殊性をその収集方法・強度・精度・S/N 比・再現性・個体差など種々の点から理解する。続いて代表的な人間の身体に関する物理量を取り上げ、これら諸量の生理学的意義と計測の目的、計測法の原理などについて体系的に理解する。 | | |
| 関連科目 | 運動学 運動学実習 支援工学 臨床運動学 | | |
| 成績評価方法・基準 | 試験 (80%) レポートなど (20%) | | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | テキストの事前学習が望ましい (15) 事前・事後学習あわせて90分程度 | | |
| 教科書・参考書 | 教科書：「初学者のための生体機能の測り方」加藤 象二郎, 大久保 堯夫 日本出版サービス 教科書：「First Stageシリーズ 電気・電子入門」日高邦彦・清水五男 実教出版 | | |
| オフィス・アワー | 講義日12：10～13：00 | | |
| 国家試験出題基準 | 専門 II-3-C 専門 IV-1-H | | |
| 履修条件・履修上の注意 | テキストにて予習を行っておくこと | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | グループワークなどによる課題を実施予定である | | |

講義科目名称： 支援工学

授業コード： 4P085

英文科目名称： Wellbeing Science and Assistive Technology

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 3学年 | 1単位 | 選択 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 目黒 力 | | | |

| | | |
|-------------------------|---|--|
| 授業形態 | 講義8回 | 担当者 |
| 授業計画 | <p>第1回 支援工学とは 支援工学をはなにか、世界はどのように取り組んでいるか、またそれに関わる領域について学ぶ</p> <p>第2回 車椅子 車いすを工学的に解析する手法について検討する</p> <p>第3回 電動車椅子 一般的な電動車いすの区分とその特徴について学ぶ</p> <p>第4回 福祉車両 障害者や高齢者が利用する車両とその特徴について学ぶ</p> <p>第5回 視・聴覚障害者に対するアプローチ 視覚・聴覚障害者に対するリハビリテーション工学の実際と課題を検討する</p> <p>第6回 義肢装具とシーティング 近年開発が著しい義肢装具とその最新状況と姿勢保持装置について学ぶ</p> <p>第7回 コミュニケーション機器他 コミュニケーション分野におけるリハビリテーション?学からのアプローチについて学ぶ</p> <p>第8回 私の考える支援機器（研究発表会） 学んだ事から各自興味をもった最新のリハビリテーション工学についてまとめる</p> | 目黒 目黒 目黒 目黒 目黒 目黒 目黒 目黒 |
| 科目の目的 | <p>支援工学とは、工学的手法をリハビリテーションに応用するものであり、その応用範囲はとても広く、リハビリテーションの評価、治療、装具、生活支援など様々なものに応用されている。本科目では、この中でも、身体機能の評価に用いられる工学的手法について扱い、利用できるようにすることを目的とする。</p> <p>1. 理学療法に必要な自然科学の学びだけでなく、人間が生み出した文化や歴史、社会の動きと仕組み、生命倫理、コミュニケーションの学びを積み重ねた豊かで幅広い教養</p> <p>2. 理学療法の実践に向かうための必要な基礎医学、臨床医学、理学療法学の基本的知識及び技術</p> <p>3. 地域に根差したリハビリテーションの必要性和多職種連携による問題解決の重要性の理解</p> <p>4. 自己研鑽に励み、自ら疑問や課題を設定し、問題解決のために調査・検討・分析できる能力</p> | |
| 到達目標 | 高齢者・障害者に対する工学からのアプローチを理解し、その概要を理解する。 | |
| 関連科目 | 運動学 生活環境学 日常生活活動学 | |
| 成績評価方法・基準 | 講義内発表(50%) 課題提出(50%) | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | シラバスに沿って予習すること。(15)事前・事後学習あわせて90分程度 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：使用しない 参考書：リハビリテーション工学と福祉機器（リハビリテーションMOOK） 金原出版 | |
| オフィス・アワー | 講義日もしくは月曜日12：00～13：00 | |
| 国家試験出題基準 | II-3-G-k | |
| 履修条件・履修上の注意 | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 発表会を行う予定である | |

講義科目名称： 事例研究法

授業コード： 4P087

英文科目名称： Case Study Methods

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|-------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 3学年 | 1単位 | 選択 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 村田 和香 | | | |

| | | | |
|-------------------------|---|------------------------------|------|
| 授業形態 | 講義（2）および演習（6） | | 担当者 |
| 授業計画 | 第1回 | 事例研究と事例報告 エビデンスを使う、伝える、作る | 村田和香 |
| | 第2回 | 事例分析 理論背景とリーズニング | 村田和香 |
| | 第3回 | 事例分析 1 | 村田和香 |
| | 第4回 | 事例分析 2 | 村田和香 |
| | 第5回 | 事例分析 3 | 村田和香 |
| | 第6回 | 事例分析と発表 1 | 村田和香 |
| | 第7回 | 事例分析と発表 2 | 村田和香 |
| | 第8回 | 事例分析と発表 3 | 村田和香 |
| 科目の目的 | 事例研究および事例報告の読み方について学んだ後、文献等で公表されている事例報告の分析に取り組む。この過程を通して、報告目的の絞り方、表題やキーワードの効果的な付け方、作業療法評価や方針の記述方法、経過や結果に示すべき情報の取捨選択、考察の表現方法などについて学習することを目的とする。【コミュニケーション能力】【論理的思考・多様性理解】【知的探求心と創造性】 | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例研究と事例報告の関係を説明できる。 2. 根拠に基づく実践の意味を理解し、説明できる。 3. 公表された事例を分析し、理論背景を見つけることができる。 4. 分析結果を他者に理解できるよう発表する。 | | |
| 関連科目 | 理学療法治療学の各科目、および地域リハビリテーション、チーム医療とリハビリテーション | | |
| 成績評価方法・基準 | 事例分析の報告（ルーブリック評価）80%、および個人レポート20%。 | | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 提供された事例報告にあるわからない用語等を確認しておくこと。30分程度。 | | |
| 教科書・参考書 | 参考書：理学療法研究論で使用したもの等の利用 | | |
| オフィス・アワー | 授業のお昼休み、もしくは18時まで。村田研究室。 | | |
| 国家試験出題基準 | | | |
| 履修条件・履修上の注意 | | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | グループワーク中心に展開する。 | | |

講義科目名称： 卒業研究

授業コード： 4P088

英文科目名称： Graduation Studies

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|-------------------------|---|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 4学年 | 2単位 | 選択 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 木村 朗 | | | |
| 授業形態 | | | |
| 授業計画 | ※今年度開講せず（2021年度カリキュラム） | | |
| 科目の目的 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 関連科目 | | | |
| 成績評価方法・基準 | | | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | | | |
| 教科書・参考書 | | | |
| オフィス・アワー | | | |
| 国家試験出題基準 | | | |
| 履修条件・履修上の注意 | | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験 | 木村 朗（理学療法士） | | |
| 授業の概要 | 卒業後、自ら研究する姿勢と能力を養うことを目的に、専門科目担当教員の指導の下、テーマを定めて研究に取り組む。具体的には、研究の必要性の理解、研究課題の設定、文献検索、具体的研究テーマと目的の設定、研究方法の選択（実験研究、臨床研究）、倫理的配慮、研究計画書の作成、データの収集・集計・分析・考察、論文作成して発表する。 | | |

講義科目名称： 理学療法管理学

授業コード： 4P089

英文科目名称： Physiotherapy Management

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|-------|------|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 3学年 | 2単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 岡崎 大資 | 江口勝彦 | 富田浩 | |

| 授業形態 | 講義 | 担当者 |
|-------------------------|--|-------|
| 授業計画 | 第1回 自己管理とキャリアデザイン | 江口 |
| | 第2回 リスク管理 | 江口 |
| | 第3回 診療録 | 江口 |
| | 第4回 臨床実習教育方法論 | 江口 |
| | 第5回 職場に於ける人間関係 | 江口 |
| | 第6回 保健医療福祉機関の管理運営1 ゲストスピーカー：保健医療福祉施設より3名（松本 田嶋 赤池） | 江口 |
| | 第7回 保健医療福祉機関の管理運営2 ゲストスピーカー：保健医療福祉施設より3名（松本 田嶋 赤池） | 江口 |
| | 第8回 患者からみた理学療法のあり方 | 岡崎 富田 |
| | 第9回 セラピストが負うべき責任 | 岡崎 富田 |
| | 第10回 医療従事者の資質の向上 | 岡崎 富田 |
| | 第11回 使える心理学1 集団における社会心理学 | 岡崎 富田 |
| | 第12回 使える心理学2 行動生起のためのきっかけづくり | 岡崎 富田 |
| | 第13回 使える心理学3 セルフマネジメントの方法 | 岡崎 富田 |
| | 第14回 使える心理学4 思考と行動の融合 | 岡崎 富田 |
| | 第15回 キャリアデザイン | 岡崎 富田 |
| 科目の目的 | 理学療法の質の保証、および適切な理学療法提供システムを理解するために、効率的な財政的・物質的・人的資源確保について、計画・組織および運用方法に関し医療機関内理学療法、施設内理学療法、および地域理学療法それぞれにおけるマネジメントについて学ぶ。また、理学療法士として必要な職能性（関係法規、施設基準、診療報酬、介護報酬、リスク管理など）について講義する。 【倫理観と幅広い教養】 【基本的知識と技術】 【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】 【自己研鑽・探求力】 | |
| 到達目標 | 1. 理学療法に必要な管理について概略を説明できる。 2. 自身のキャリア形成と人を育てる臨床教育の側面から人的管理について理解する。 3. 健康保険診療のルールに沿って、リスク管理、情報管理などの業務管理について理解する。 4. 臨床実習指導者として、臨床教育に関わる心構えを身につける。 5. 人間関係力について理解する。 | |
| 関連科目 | 安全管理、理学療法関連領域論、社会福祉・地域サービス論、人間関係・コミュニケーション論、リハビリテーション概論、理学療法概論 | |
| 成績評価方法・基準 | レポート50%、定期試験50% | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 評価学実習で学んだ理学療法業務について復習しておくこと。（30分） | |
| 教科書・参考書 | 教科書は指定しない。 必要に応じて資料を配付する。 | |
| オフィス・アワー | 岡崎・富田：月曜日12時～13時 江口：授業後 | |
| 国家試験出題基準 | ≪専門基礎≫-Ⅲ-1-A, ≪専門≫-Ⅱ-1-A～C, ≪専門≫-Ⅱ-2-A～E, ≪専門≫-Ⅱ-3-A～E, ≪専門≫-Ⅵ-1-A～I | |
| 履修条件・履修上の注意 | 臨床実習で学んだ理学療法業務について理解しておくこと。 | |

| | |
|----------------|------|
| アクティブ・ラーニングの実施 | 実施なし |
|----------------|------|

| | | | |
|-------|-------|------|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 3学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 田辺 将也 | 加茂 智彦 | 木村 朗 | |

| | | | |
|-----------|--|--|-------|
| 授業形態 | 講義10回 演習3回 実技2回 | | 担当者 |
| 授業計画 | 第1回 | 呼吸器疾患の現状，呼吸器の概要，呼吸器系解剖学 社会における呼吸器疾患の位置づけを疫学的視点から考察し，呼吸リハビリテーションの必要性を説明する。 呼吸に関与する骨・筋，肺の形態，構造を理解し，その機能から呼吸のメカニズムを的確に把握する。 | 田辺 将也 |
| | 第2回 | 呼吸器系の運動生理学，呼吸不全 呼吸器の解剖学的・生理学的知識を学び，胸郭の構造と胸郭運動の特徴から呼吸のしやすさ・しにくさを運動学的に理解する。さらに，換気やガス交換の意味とメカニズム，血液ガスの正常値とその異常によって生じる病態，呼吸不全の定義とガス交換障害と換気障害の違い，呼吸不全を呈する代表的な呼吸器疾患の発生機序や身体症状，そして呼吸困難の症状や呼吸困難感について理解する。 | 田辺 将也 |
| | 第3回 | 呼吸リハビリテーションにおける評価① 呼吸リハビリテーションにおける評価の目的を理解し，必要な情報収集の内容を把握する。フィジカルアセスメントの内容を理解し適切に実施する。 | 田辺 将也 |
| | 第4回 | 呼吸リハビリテーションにおける評価② 呼吸不全患者に適したADL・QOLの評価法や，運動負荷試験の意義・目的，適応について理解する。呼吸困難感の評価スケールについて理解する。呼吸器疾患の胸部X線画像やCT画像などの画像所見の基本を理解する。 | 田辺 将也 |
| | 第5回 | 呼吸リハビリテーションにおける評価③ 肺気量分画を理解し，呼吸機能検査を適切な手順で実施，その結果を正しく解釈する。 | 田辺 将也 |
| | 第6回 | 吸引 吸引の手技を理解する。 | 田辺 将也 |
| | 第7回 | 循環器系の運動生理学 心不全を呈する疾患とその病態の特徴を把握し，循環器系理学療法の目的を理解する。 | 加茂 智彦 |
| | 第8回 | 循環器系の理学療法の評価① フィジカルアセスメント | 加茂 智彦 |
| | 第9回 | 循環器系の理学療法の評価② 臨床心電図の読解①，運動負荷試験 | 加茂 智彦 |
| | 第10回 | 循環器系の理学療法の評価③ 臨床心電図の読解② | 加茂 智彦 |
| | 第11回 | 循環器系の理学療法の評価④ 臨床心電図の読解③および基本的な治療のあらし | 加茂 智彦 |
| | 第12回 | 代謝系の運動生理学 糖尿病の病態の特徴を把握し，代謝系理学療法の目的を理解する。 | 木村 朗 |
| | 第13回 | 代謝系の理学療法の評価① 血糖コントロールのあらし 身体活動量の評価 | 木村 朗 |
| | 第14回 | 代謝系の理学療法の評価② 自己血糖測定のあらし | 木村 朗 |
| | 第15回 | 代謝系の理学療法の評価③ 糖尿病の運動処方あらし | 木村 朗 |
| 科目の目的 | 本科目は，患者に対し，内部機能系疾患に対する治療およびリハビリテーションにおいて必要な評価項目を選択し，適切に実施できる能力を身に付けます【倫理観と幅広い教養】【基本的知識と技術】【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】【自己研鑽・探求力】。 | | |
| 到達目標 | 呼吸・循環・代謝を運動学，解剖学，生理学の知識で理解し，その運動を構造的側面，機能的側面で説明することができる。 内部機能系疾患患者に対する運動療法・リハビリテーションの標準的な検査測定・評価法・リハビリテーションの適応と禁忌の判断，リスク管理，理学療法に対する効果判定を説明することができる。 | | |
| 関連科目 | 専門基礎科目群：生理学Ⅰ・Ⅱ，リハビリテーション医学，内科学 専門科目群：内部機能系理学療法治療学演習 | | |
| 成績評価方法・基準 | 成績評価は授業内で行う小テスト(10%)，定期試験(90%)とする。小テストはそれまでの学習の確認テストに位置付ける。試験範囲は事前に授業内で連絡する。定期試験はの試験範囲は全ての範 | | |

| | |
|-------------------------|--|
| | 困とする。また講義資料だけでなく、講義内容、教科書の指定範囲を含める。 |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 事前に各回の講義内容部分について、新しく目にした単語・概念、または既に学習済みであっても忘れていた内容について調べる。講義内で分からなかった用語については、講義後に適宜調べる。予習復習合わせて1時間。 |
| 教科書・参考書 | 【教科書】 「最新理学療法学講座 内部障害理学療法学」(医歯薬出版) 【参考書】 「標準理学療法 運動療法総論」(医学書院) |
| オフィス・アワー | 講義日の昼休み |
| 国家試験出題基準 | 《専門》-I-3-M-d, 《専門》-I-3-N, 《専門》-III-8-E~G, 《専門》-III-8-J~K, 《専門》-III-8-N, 《専門》-IV-9-K~L |
| 履修条件・履修上の注意 | 講義資料については、講義日前日までに指示する。 |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 課題が与えられる。学生は、それまでに学習した内容についてまとめる。 |
| 実務経験のある教員による授業 | |
| 実務経験 | 木村 朗(理学療法士) |
| 授業の概要 | 呼吸・循環・代謝系の病態に対して、カルテ情報や画像情報・問診・観察によって標準的な理学療法の適応判断が求められる生理的機能、心理的影響等において理学療法士が行う診断学を学習する。内部疾患に対して病態改善のみならず、合併症として運動負荷によるリスクが生じる状況について固有の検査・測定技術・評価データの解釈、内部機能を改善する理学療法を学ぶ。 |

講義科目名称： 高次脳機能評価学

授業コード： 4P095

英文科目名称： Higher Brain Disfunction Assessment

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 3学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 竹原 敦 | | | |

| | | |
|-------------------------|---|---|
| 授業形態 | 講義15時間 | 担当者 |
| 授業計画 | <p>第1回 高次脳機能障害の症状と分類</p> <p>第2回 神経心理学の見方</p> <p>第3回 失語の症状と評価</p> <p>第4回 失認の症状と評価</p> <p>第5回 失行、遂行機能障害、社会行動障害の症状と評価</p> <p>第6回 注意と記憶障害の症状と評価</p> <p>第7回 認知症の評価：予防的視点とMCI</p> <p>第8回 認知症の評価：認知症の症状と評価</p> | <p>竹原敦</p> <p>竹原敦</p> <p>竹原敦</p> <p>竹原敦</p> <p>竹原敦</p> <p>竹原敦</p> <p>竹原敦</p> <p>竹原敦</p> |
| 科目の目的 | <p>脳の機能全般とその障害像を理解し、臨床の理学療法に必要な知識と評価方法を学ぶ。特に、認知機能障害の全体像を把握するための必要な評価手段を理解し、適切な検査方法を選択することを学ぶ。脳損傷によって生じる失語・失認・失行・記憶障害・認知症などの高次脳機能障害について、画像診断を含めた診断法、神経心理学的評価法と解釈、リハビリテーションに関して学習する。</p> <p>【知識・理解】 【思考・判断】</p> | |
| 到達目標 | <p>1. 脳機能と高次脳機能障害の関連性を理解することができる</p> <p>2. 高次脳機能障害の症状と分類を理解することができる</p> <p>3. 高次脳機能障害の全般的な評価方法を理解することができる</p> <p>4. 失語・失認・失行・記憶障害・認知症などの評価法を理解することができる</p> | |
| 関連科目 | 理学療法診断学、神経機能系理学療法治療学演習 | |
| 成績評価方法・基準 | <p>筆記試験（70%）、レポート（30%）</p> <p>なお、試験、レポートは、ActiveAcademy、メールあるいは口頭にてフィードバックする。</p> | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | <p>教科書・参考書・講義資料をもとに授業該当箇所の予習と復習を行う。</p> <p>予習および復習に必要な学習時間の目安は1コマあたり各1時間。</p> | |
| 教科書・参考書 | <p>教科書：阿部浩明・編：高次脳機能障害に対する理学療法、文光堂、東京、2016.</p> <p>参考書：授業で紹介します。</p> | |
| オフィス・アワー | 昼休み12：10～13：00 竹原研究室 | |
| 国家試験出題基準 | 《専門》-Ⅲ-3-J～L, 《専門》-Ⅲ-8-M | |
| 履修条件・履修上の注意 | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 問題解決学習、グループ・ワーク等を実施 | |

講義科目名称： 脊髄疾患理学療法学演習

授業コード： 4P098

英文科目名称： Practice in Physiotherapy for Spinal cord Dise...

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|-------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 3学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 城下 貴司 | | | |

| 授業形態 | 講義（13コマ）、実技演習（2コマ） | 担当者 |
|-------------------------|---|--|
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション(学習法と授業の進め方) 第2回 末梢神経損傷概論 主に上肢 第3回 末梢神経損傷概論 主に下肢 第4回 頸椎疾患① 第5回 頸椎疾患② 第6回 胸椎疾患 第7回 腰椎疾患① 第8回 腰椎疾患② 第9回 脊柱疾患の復習および小テスト 第10回 脊髄損傷 概論① 障がい者スポーツ含む 第11回 脊髄損傷 概論② 障がい者スポーツ含む 第12回 脊髄損傷 評価① 障がい者スポーツ含む 第13回 脊髄損傷 評価② 障がい者スポーツ含む 第14回 脊髄損傷 治療① 障がい者スポーツ含む 第15回 脊髄損傷 治療② 障がい者スポーツ含む | 城下 城下 城下 城下 城下 城下 城下 城下 城下 城下 城下 城下 城下 城下 城下 |
| 科目の目的 | 理学療法の対象となる障害のうち、脊柱疾患の理学療法を行うために必要な基礎知識を学ぶ。 *ディプロマ・ポリシー：【倫理観と幅広い教養】【基本的知識と技術】【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】【自己研鑽・探求力】 | |
| 到達目標 | 理学療法に関わるための脊柱疾患の各疾患別理学療法の基礎知識の獲得をする。 | |
| 関連科目 | 運動器解剖学、臓器解剖学、表面解剖学と触診法、、生理学ⅠおよびⅡ、運動学、臨床運動学、運動学実習、整形外科学、理学療法診断学、基礎理学療法診断学演習、運動機能系理学療法診断学演習、運動機能系理学療法治療学演習、スポーツ理学療法学、障がい者スポーツレクリエーション論 | |
| 成績評価方法・基準 | 中間テスト20%、定期試験80%で総合評価する | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 授業前に1時間程度の学習時間を要する予習を具体的に指定する、授業後の復習も必修である。 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：中村 利孝ほか：標準整形外科学 15版. 医学書院 教科書：城下貴司 運動機能系理学療法診断学 上肢編 ブイーツソリューション 星雲社 教科書：城下貴司 運動機能系理学療法診断学 下肢編 ブイーツソリューション 星雲社 教科書：城下貴司 運動機能系理学療法診断学 脊柱編 ブイーツソリューション 星雲社 参考書：島田洋一、高橋仁美：術後理学療法プログラム メジカルビュー 参考書：林 典雄ほか：関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション— 参考書：図解 理学療法技術ガイド 第3版 文光堂 | |
| オフィス・アワー | 水曜日：12：10～13：00 | |
| 国家試験出題基準 | 《専門》-Ⅲ-8-A, 《専門》-Ⅲ-8-B-h, 《専門》-Ⅳ-9-A | |
| 履修条件・履修上の注意 | 1時間程度の予習と復習は必修である 授業ノート作成しておくこと | |

| | |
|----------------|--|
| アクティブ・ラーニングの実施 | 反転授業形式を採用する。、その課題には各疾患の問題解決方法をまとめる必要がある。 |
| 実務経験のある教員による授業 | |
| 実務経験 | 城下 貴司（理学療法士） |
| 授業の概要 | 脊髄疾患は理学療法的主要な対象疾患である。脊髄疾患には外傷性の脊髄損傷と、疾病による脊髄腫瘍や血管障害及び進行性難病がある。疾病による脊髄疾患は神経系疾患で取り扱うので、本講義では、脊髄疾患の基本的な症状を示す脊髄損傷に関して重点的に学ぶ。具体的には、脊髄損傷の疫学、病理と臨床像、障害タイプの分類と予後、合併症とその管理について理解した上で、脊髄損傷に対する理学療法診断学と治療学について学ぶ。 |

| | | | |
|------|-------|------|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 3学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 鈴木 学 | 加茂 智彦 | 橋口 優 | |

| 授業形態 | 講義, 実技 | 担当者 |
|-------|--|--|
| 授業計画 | <p>第1回 高次脳機能障害の病態と評価 失語, 失認, 失行</p> <p>第2回 片麻痺の回復を阻害する因子とその対処1 肩の痛み, 肩手症候群, 嚥下障害, 排尿障害</p> <p>第3回 片麻痺の回復を阻害する因子とその対処2, 片麻痺の日常生活活動 (ADL) 指導 半側空間無視, 押す人症候群, 移乗動作</p> <p>第4回 片麻痺の日常生活活動 (ADL) 指導 片麻痺の移乗動作, 車椅子操作, self care指導ADL指導の実際</p> <p>第5回 錐体外路系の運動制御機能 錐体外路系の伝導路とその機能, 神経難病とは</p> <p>第6回 CVA以外の原因による片麻痺の理学療法 頭部外傷および脳腫瘍による片麻痺の病態と治療介入</p> <p>第7回 各種神経変性疾患の理学療法 (2) パーキンソン病の病態と理学療法介入 (1)</p> <p>第8回 各種神経変性疾患の理学療法 (3) パーキンソン病の病態と理学療法介入 (2)</p> <p>第9回 各種神経変性疾患の理学療法 (4) 失調症の病態と理学療法介入 (1)</p> <p>第10回 各種神経変性疾患の理学療法 (5) 失調症の病態と理学療法介入 (2)</p> <p>第11回 各種神経変性疾患の理学療法 (6) 筋萎縮性硬化症の病態と理学療法介入</p> <p>第12回 各種神経変性疾患の理学療法 (7) 多発性硬化症の病態と理学療法介入</p> <p>第13回 各種神経変性疾患の理学療法 (8) 脊神経筋接合部疾患と成人筋疾患の病態と理学療法介入</p> <p>第14回 各種神経変性疾患の理学療法 (9) 脊髄疾患および末梢神経疾患の病態と理学療法介入</p> <p>第15回 各種神経変性疾患の理学療法 (10) めまいの理学療法介入</p> | <p>鈴木 学</p> <p>鈴木 学, 橋口優, 加茂 智彦</p> <p>鈴木 学, 橋口優, 加茂 智彦</p> <p>鈴木 学</p> <p>鈴木 学</p> <p>鈴木 学</p> <p>鈴木 学</p> <p>鈴木 学, 橋口優, 加茂 智彦</p> <p>鈴木 学</p> <p>鈴木 学, 橋口優, 加茂 智彦</p> <p>鈴木 学</p> <p>鈴木 学</p> <p>鈴木 学</p> <p>鈴木 学</p> <p>加茂 智彦</p> |
| 科目の目的 | <p>2年次の神経機能系理学療法診断学演習および治療学演習Ⅰの継続内容として高次脳機能障害や片麻痺で頻発する問題点への対応, 片麻痺のADL指導および維持期の理学療法, 予後予測について網羅する。また脳血管障害以外の原因 (頭部外傷, 脳腫瘍) による片麻痺, およびパーキンソン病, 脊髄小脳変性症などの神経系疾患の症状とそれに伴う障害についての知識を習得するとともに, それらの理学療法 (運動療法の原理, 治療体系, 評価, 問題点抽出, 目標設定, 治療計画立案, リスク管理) について学習する。治療体系については技術面の習得も演習を実施する。各種神経筋疾患の進行段階に合わせた理学療法, 非進行性疾患に対する理学療法の実践の習得を目指し, 評価から効果判定まで効果的な理学療法ができるようにする。</p> <p>これらは理学療法学科のディプロマ・ポリシーの【倫理観と幅広い教養】【基本的知識と技術】【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】【自己研鑽・探求力】能力を向上させる</p> | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 高次脳機能障害や頻発する問題点について理解する。 2. 片麻痺のADL指導について理解する。 3. 片麻痺の維持期理学療法および予後予測について理解する。 4. 頭部外傷, 脳腫瘍などに生じる障害および評価, 治療プログラム作成, 理学療法実施方法について説明できる。 5. パーキンソン病, 失調症 (脊髄小脳変性症含む), 多発性硬化症, 筋萎縮性側索硬化症などの中枢神経疾患及び多発性神経炎 (ギランバレー症候群含む), 皮膚筋炎などの末梢神経疾患に対する理学療法における評価, 治療プログラム作成, 理学療法実施方法について説明できる。 6. パーキンソン病, 失調症 (脊髄小脳変性症含む), 多発性硬化症, 筋萎縮性側索硬化症などの中枢神経変性疾患及び多発性神経炎 (ギランバレー症候群含む), 皮膚筋炎などの末梢神経疾患に対する理学療法を実施する上でのリスク管理について説明できる。 | |
| 関連科目 | 臓器解剖学 運動器解剖学 生理学Ⅰ・Ⅱ 生理学実習 運動学 精神医学 神経内 | |

| | |
|-------------------------|--|
| | 科学 リハビリテーション医学 理学療法診断学 日常生活活動学 神経機能系理学療法診断学演習 神経機能系理学療法治療学演習Ⅰ 装具学 見学実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 神経機能系理学療法診断学演習 神経機能系理学療法治療学演習Ⅰ 装具学 見学実習 神経機能系理学療法治療学演習Ⅰ 評価学実習 |
| 成績評価方法・基準 | 筆記試験 100% |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 神経解剖学, 神経生理学の知識をもっていることが望ましい 準備時間: 30~60分 |
| 教科書・参考書 | 「理学療法テキスト 神経障害理学療法Ⅱ」石川朗 総編集(中山書店) 「神経内科学テキスト(改訂第3版)」江藤文夫、飯島節(南江堂) パワーポイント資料をPDFファイルにて配布予定 参考書 「系統理学療法学 神経障害系理学療法学」丸山仁司 編(医歯薬出版) 「理学療法学ゴールドマスターテキスト5「中枢神経系理学療法学」柳澤 健編集(メジカルビュー社) |
| オフィス・アワー | 木、金曜日12:30~13:00 605研究室 |
| 国家試験出題基準 | 《専門》-IV-1-C, 《専門》-IV-5-D, 《専門》-IV-5-G, 《専門》-IV-9-B~C, 《専門》-IV-9-H, 《専門》-IV-9-M, 《専門》-IV-9-P-a~c |
| 履修条件・履修上の注意 | 中枢神経および脳神経の解剖学, 生理学の知識が乏しいと内容の理解が難しくなるのでこれらの基礎を把握することが重要である。 神経機能系理学療法診断学演習の内容が基礎となり神経機能系理学療法治療学演習Ⅰの内容と合わせて治療学が完結する。講義資料は前週にActive academyにて配布し、PCまたは紙媒体で持参する。 |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 実施せず |
| 実務経験のある教員による授業 | |
| 実務経験 | 鈴木 学(理学療法士) |
| 授業の概要 | 「神経機能系理学療法診断学演習」及び「神経機能系理学療法治療学演習Ⅰ」で学んだ治療体系について技術面の演習を行う。具体的には脳血管障害の急性期・回復期・慢性期それぞれに対応した治療アプローチを習得する。また、進行性神経難病の進行段階に合わせた理学療法を実施できる能力の習得を目指す。診断から効果判定まで系統的な理学療法が実践できるよう具体的な事例で演習を行う。 |

| | | | |
|------|-------|-------|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 3学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 木村 朗 | 加茂 智彦 | 田辺 将也 | |

| 授業形態 | 演習1-15コマ・講義1-15コマ 併用15コマ | | 担当者 |
|------|--------------------------|--|------------------------|
| 授業計画 | 第1回 | I. 内部機能系障害のリハビリテーションと理学療法 内部障害のリハビリテーションの疫学 理学療法（士）の役割 | 木村 朗 加茂 智彦 |
| | 第2回 | 循環器系アセスメントと理学療法 1 PTが行うべき心臓機能の評価のフレームワーク | 加茂 智彦 木村 朗 |
| | 第3回 | 循環器系アセスメントと理学療法 2 P波とQRS波 危険な波形を示す病態の評価と運動療法 | 加茂 智彦 木村 朗 |
| | 第4回 | 循環器系アセスメントと理学療法 3 除脈に関連する波形を示す病態の評価と運動療法 | 加茂 智彦 木村 朗 |
| | 第5回 | 循環器系アセスメントと理学療法 4 頻脈に関連する波形を示す病態の評価と運動療法 | 加茂 智彦 木村 朗 |
| | 第6回 | 循環器系アセスメントと理学療法 5 ECG4 十二誘導によるECGモニタリングを必要とする病態の評価と運動療法 | 木村 朗 田辺 将也 加茂 智彦 |
| | 第7回 | 呼吸器系PT1 呼吸機能の評価のフレームワーク 治療プログラム 1 | 田辺 将也 加茂 智彦 木村 朗 |
| | 第8回 | 呼吸器系PT2 呼吸機能の評価のフレームワーク 治療プログラム2 | 田辺 将也 加茂 智彦 木村 朗 |
| | 第9回 | 呼吸器系PT3 呼吸機能の評価のフレームワーク 治療プログラム3 | 田辺 将也 加茂 智彦 木村 朗 |
| | 第10回 | 呼吸器系PT4 呼吸機能の評価のフレームワーク 治療プログラム4 | 田辺 将也 加茂 智彦 木村 朗 |
| | 第11回 | 呼吸器系PT5 呼吸機能の評価のフレームワーク 治療プログラム5 | 木村 朗 田辺 将也 |
| | 第12回 | 代謝系PT1 PTが知っておくべき糖尿病の診断と治療方法の整理 糖尿病性合併症の機序 | 木村 朗 田辺 将也 |
| | 第13回 | 代謝系PT1 糖尿病の運動療法 運動処方の実際 有酸素運動 レジスタンス運動 バランスエクササイズ演習 | 木村 朗 田辺 将也 |
| | 第14回 | 代謝系PT1 身体活動測定 身体活動処方 運動強度別血糖降下急性効果の確認（SMBG）行動変容 | 木村 朗 田辺 将也 |
| | 第15回 | 脈管系PT がんの理学療法 動脈硬化に対するPT 脈波伝搬速度の測定 がんに対する内部機能系理学療法のあるまし | 木村 朗 田辺 将也 |

| | |
|-------|--|
| 科目の目的 | <p>身体障害の原因として最も頻度の高い血管病変の知識を理解する。 呼吸・循環器及び代謝機能の疾患をもつ者の理学療法の実践にあたってEBM遂行上必要な基本的な知識と技術の習得を目的とする。 運動療法および身体活動が呼吸・循環・代謝機能に及ぼす影響を理解し、それらの機能の低下をきたす疾患に適応される根拠を学ぶ。 生活習慣病から動脈硬化に至る病態を理解し、現時点で標準的とされる理学療法の適切な介入方法を学ぶ。 理学療法分野の基本的技術を提供することができるようになる。 DPとの関連：2. 理学療法の実践に向かうための必要な基礎医学、臨床医学、理学療法学の基本的知識及び技術、4. 自己研鑽に励み、自ら疑問や課題を設定し、問題解決のために調査・検討・分析できる能力に対応。</p> |
|-------|--|

| | |
|------|---|
| 到達目標 | <p>学生は各内部疾患(者)に生じる障害を理解し、基本的な評価項目と治療法を列挙することができる。 学生は各内部疾患(者)に対するEBMに則った理学療法プログラムの作成に必要な基本的な生理学・病理学の要点が説明できる。 学生は各内部疾患(者)・合併者のリスクとして頻出なものを挙げるができる。その理学療法上</p> |
|------|---|

| | |
|-------------------------|---|
| | <p>の対策を説明することができる。</p> <p>学生はモニター心電図上頻出する疾患の生成機序の説明ができる。</p> <p>学生はリハビリテーションを必要とする主な呼吸器・心疾患・脈管系疾患・糖尿病の診断方法と基準が説明できる。</p> <p>学生は呼吸・循環・代謝系理学療法の治療を実施するためのガイドラインに示された適応禁忌の判断基準が説明できる。</p> <p>学生は理学療法技術（有酸素運動の指導など）を模擬患者および健常者に対し試みることができる。</p> |
| 関連科目 | <p>専門基礎科目群：生理学、運動学実習、リハビリテーション医学、内科学</p> <p>専門科目群：内部機能系理学療法診断学</p> |
| 成績評価方法・基準 | 定期試験(80%)、小テスト(10%)、課題レポート(10%) |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 各回の講義内容部分について、新しく目にした単語・概念、または既に学習済みであっても忘れていくことについて、教科書およびWeb上で可能な限り調べ、ノートを準備の上、確認しておく。予習60分を目安とする。 |
| 教科書・参考書 | <p>教科書：内部障害理学療法学 高橋哲也 編著（医歯薬出版）</p> <p>教科書：Crosslink理学療法学テキスト運動療法学（メジカルビュー）</p> <p>参考書：標準理学療法学 運動療法学 総論 第4版（医学書院）</p> <p>参考書：実践身体活動学（三共出版）</p> |
| オフィス・アワー | <p>講義日の12:10～12:50(木村研究室)</p> <p>(a-kimura@paz.ac.jp)</p> |
| 国家試験出題基準 | <p>《専門》-III-8-I, 《専門》-IV-1-C, 《専門》-IV-5-B, 《専門》-IV-9-E～G, 《専門》-IV-9-I, 《専門》-IV-9-K～L</p> |
| 履修条件・履修上の注意 | 運動可能な服装着用のこと |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 課題を提示するので、それまでに学習した内容を駆使して各自回答を仕上げる双方向性セッションを設ける。 |
| 実務経験のある教員による授業 | |
| 実務経験 | 木村 朗（理学療法士）田辺 将也（理学療法士）加茂 智彦（理学療法士） |
| 授業の概要 | <p>本科目では、「内部機能系理学療法診断・治療学」の理解の上に立ち、呼吸・循環・代謝系疾患障害の固有の検査・測定方法、その結果の解釈、肺活量・肺機能検査値・心電図や血液データの見かたを含む診断学、呼吸・循環・代謝系理学療法の実際の治療のあらましを学ぶ。</p> |

講義科目名称： 身体活動学

授業コード： 4P102

英文科目名称： Physical Activity

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 3学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 木村 朗 | | | |

| 授業形態 | 講義、演習 | 担当者 |
|-------------------------|--|--|
| 授業計画 | 第1回 身体活動の定義と意義 身体活動の定義と意義を理解する。 第2回 身体活動量測定 of 歴史 身体活動量測定 of 歴史を理解する。 第3回 身体活動量の測定方法 1 と利活用 身体活動量測定方法として調査紙法を理解する。 第4回 身体活動量の測定方法 2 と利活用 身体活動量測定方法として生理学的手法を理解する。 第5回 身体活動量の測定方法 3 と利活用 身体活動量測定方法として運動力学的手法を理解する。 第6回 身体活動量の測定方法 4 と利活用 身体活動量測定方法として運動幾何学的手法を理解する。 第7回 身体活動量の測定方法 5 と利活用 身体活動量測定方法として思い出し法を理解する。 第8回 生活習慣病予防のための身体活動処方・指導方法・モニタリング手法 生活習慣病予防のための身体活動処方・指導方法モニタリング手法を理解する。 | 木村 朗 木村 朗 木村 朗 木村 朗 木村 朗 木村 朗 木村 朗 木村 朗 |
| 科目の目的 | 公衆衛生やリハビリテーションに必要な身体活動のあらましが説明できるようになること。 DPとの関連：1. 理学療法に必要な自然科学の学びだけでなく、人間が生み出した文化や歴史、社会の動きと仕組み、生命倫理、コミュニケーションの学びを積み重ねた豊かで幅広い教養、2. 理学療法の実践に向かうための必要な基礎医学、臨床医学、理学療法学の基本的知識及び技術に対応 | |
| 到達目標 | 公衆衛生やリハビリテーションに必要な身体活動量の具体的な測定方法を挙げるができるようになること。 | |
| 関連科目 | 内部機能理学療法評価法、内部機能理学療法治療法、運動学 | |
| 成績評価方法・基準 | 期末試験100% | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 予習1時間、復習1時間。 | |
| 教科書・参考書 | 身体活動学入門、木村 朗、三共出版 実践身体活動学、木村 朗、三共出版 | |
| オフィス・アワー | 講義日の12時10分～50分 | |
| 国家試験出題基準 | 《専門》-Ⅲ-8-L, 《専門》-Ⅲ-9-A～B, 《専門》-Ⅳ-9-J, 《専門》-Ⅳ-10-B, 《専門》-Ⅴ-1-J | |
| 履修条件・履修上の注意 | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 課題を提示するので、それまでに学習した内容を駆使して各自回答を仕上げるセッションを設ける。 | |

講義科目名称： 発達支援理学療法学

授業コード： 4P103

英文科目名称： Developmental Physiotherapy

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 3学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 橋口 優 | | | |

| 授業形態 | 講義・演習 | 担当者 |
|-------------------------|---|------|
| 授業計画 | 第1回 発達支援理学療法学 概論 1 発達支援に理学療法がどのように関わるかについて理解する 発達の概念を事例で考える | 橋口 優 |
| | 第2回 発達支援理学療法学 概論 2 理学療法評価と治療の概要を理解する | 橋口 優 |
| | 第3回 発達支援理学療法 評価 1 発達支援理学療法における各種評価を理解し、実施を通して学習する | 橋口 優 |
| | 第4回 発達支援理学療法 評価 2 発達支援理学療法における各種評価を理解し、実施を通して学習する 発達支援理学療法における各種評価を理解し、実施を通して学習する | 橋口 優 |
| | 第5回 脳性麻痺に対する発達支援理学療法 1 脳性麻痺に対する理学療法評価を理解する | 橋口 優 |
| | 第6回 脳性麻痺に対する発達支援理学療法 2 脳性麻痺に対する理学療法評価を理解する | 橋口 優 |
| | 第7回 脳性麻痺に対する発達支援理学療法 3 脳性麻痺に対する理学療法治療を理解する | 橋口 優 |
| | 第8回 脳性麻痺に対する発達支援理学療法 4 脳性麻痺に対する理学療法治療を理解する | 橋口 優 |
| | 第9回 二分脊椎に対する発達支援理学療法 二分脊椎に対する理学療法評価・治療を理解する | 橋口 優 |
| | 第10回 筋ジストロフィーに対する発達支援理学療法 筋ジストロフィーに対する理学療法評価・治療を理解する | 橋口 優 |
| | 第11回 ダウン症に対する発達支援理学療法 ダウン症に対する理学療法評価・治療を理解する | 橋口 優 |
| | 第12回 療育における理学療法 特別支援教育における理学療法士の役割について理解する | 橋口 優 |
| | 第13回 発達障がいに対する理学療法 発達障がいに対する理学療法評価・治療を理解する | 橋口 優 |
| | 第14回 発達支援理学療法の臨床について 1 (演習) これまでの講義内容を参考に、提示された症例に対する評価・治療をグループで検討する | 橋口 優 |
| | 第15回 発達支援理学療法の臨床について 2 (演習) これまでの講義内容を参考に、提示された症例に対する評価・治療計画を発表する 臨床における発達の障がいの現れ方の紹介・理学療法に発達学の知識を応用するメリットを理解する | 橋口 優 |
| 科目の目的 | 発達に障害をもつ人々の障害を理学療法評価を通じて理解し、その上でその人々の運動能力改善については生活改善のための理学療法の体系と方法論を理解する 本授業はディプロマポリシー1の「知識・理解を高めること」を目的とした科目である。 | |
| 到達目標 | 脳性麻痺・二分脊椎・筋ジストロフィー・ダウン症・発達障がい・重症心身障害に対する理学療法評価項目を説明でき、それぞれに対する理学療法の方針と内容を示すことが出来る。 | |
| 関連科目 | 本科目に先立って基礎となる科目…運動学・生理学・心理学・臨床心理学・公衆衛生学 本科目と関連しあう科目…小児科学・臨床神経学・臨床動作分析学・神経理学療法関連科目 | |
| 成績評価方法・基準 | 定期試験100% | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 該当テキスト部分の予習と復習 (45分程度) 該当講義資料部分の予習と復習 (45分程度) | |
| 教科書・参考書 | 教科書 シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト | |
| オフィス・アワー | 水曜日12:15~15:00 | |
| 国家試験出題基準 | 《専門》-Ⅲ-3-I, 《専門》-Ⅲ-8-D, 《専門》-Ⅳ-9-D | |
| 履修条件・履修上 | | |

| | |
|----------------|---|
| の注意 | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 授業開始時、終了時にActive Academyを利用したアンケート形式の問題を10問程度出題し、理解度の確認と各自再確認すべき項目のフィードバックを行っている。 |

講義科目名称： 理学療法関連領域論

授業コード： 4P104

英文科目名称： Related Fields to Physiotherapy

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|------|-------|-------|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 3学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 木村 朗 | 浅田 春美 | 岡崎 大資 | 田辺 将也 |

| 授業形態 | 講義 | 担当者 |
|-------------------------|--|-------|
| 授業計画 | 1回 ICUでの理学療法概説 | 木村 朗 |
| | 2回 公衆衛生と理学療法概説 | 木村 朗 |
| | 3回 女性・男性特有の機能障害・健康障害と理学療法 1 | 浅田 晴美 |
| | 4回 女性・男性特有の機能障害・健康障害と理学療法 2 | 浅田 晴美 |
| | 5回 行動科学と理学療法 1 | 岡崎 |
| | 6回 行動科学と理学療法 2 | 岡崎 |
| | 7回 産業保健理学療法 1 | 田辺 |
| | 8回 産業保健理学療法 2 | 田辺 |
| 科目の目的 | <p>今日、発展する理学療法の適応分野に焦点を当てて、それぞれのトピックスについて理解する。併せて、【倫理観と幅広い教養】【基本的知識と技術】【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】【自己研鑽・探求力】を滋養する。DPとの関連：3. 地域に根差したリハビリテーションの必要性和多職種連携による問題解決の重要性の理解 4. 自己研鑽に励み、自ら疑問や課題を設定し、問題解決のために調査・検討・分析できる能力に対応。</p> | |
| 到達目標 | 学習者が今日、発展する理学療法の適応分野に焦点を当てて、それぞれのトピックスについて説明できるようになること。 | |
| 関連科目 | 理学療法概論、理学療法研究論、理学療法診断学、地域理学療法学 | |
| 成績評価方法・基準 | 試験（100%） | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 講義1時間につき、予習復習をそれぞれ1時間の自己学習の実施を目安とする。 | |
| 教科書・参考書 | 授業中に資料を提示する。 | |
| オフィス・アワー | 講義日の昼休み12時15分から13時とする。 | |
| 国家試験出題基準 | 《専門》-III-8-P-d~e, 《専門》-IV-1-C, 《専門》-IV-5-G, 《専門》-IV-9-P-d~e | |
| 履修条件・履修上の注意 | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 課題を提示するので、それまでに学習した内容を駆使して各自回答を仕上げるセッションを設ける。 | |

講義科目名称： 物理療法学演習

授業コード： 4P106

英文科目名称： Practice in Biophysical Agents

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|------|-----|------|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 3学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 目黒 力 | 黒川望 | 岡崎大資 | |

| | | | |
|-------------------------|---|--|----------|
| 授業形態 | 講義9回 実習6回 | | 担当者 |
| 授業計画 | 第1回 | 電気生理学的基礎 電気生理学の基礎を学ぶ | 黒川 |
| | 第2回 | 電気刺激療法 低周波刺激療法やTENSについて学ぶ | 黒川 |
| | 第3回 | 電気刺激療法 干渉波、SSP療法など他の電気刺激療法について学ぶ | 黒川 |
| | 第4回 | 光線療法 赤外線療法について学ぶ | 黒川 |
| | 第5回 | 光線療法 紫外線療法について学ぶ | 黒川 |
| | 第6回 | 超音波療法 超音波療法について学ぶ | 黒川 |
| | 第7回 | 牽引療法 電動間歇牽引について学ぶ | 黒川 |
| | 第8回 | その他 その他最新の物理療法について学ぶ | 黒川 |
| | 第9回 | 実習ガイダンス 実習における心構え、レポートの書き方、注意事項について学ぶ | 目黒・黒川・岡崎 |
| | 第10回 | 実習1 講義で学んだ事を班に分かれ実習を行う | 目黒・黒川・岡崎 |
| | 第11回 | 実習2 講義で学んだ事を班に分かれ実習を行う | 目黒・黒川・岡崎 |
| | 第12回 | 実習3 講義で学んだ事を班に分かれ実習を行う | 目黒・黒川・岡崎 |
| | 第13回 | 実習4 講義で学んだ事を班に分かれ実習を行う | 目黒・黒川・岡崎 |
| | 第14回 | 実習5 講義で学んだ事を班に分かれ実習を行う | 目黒・黒川・岡崎 |
| | 第15回 | 実習6 講義で学んだ事を班に分かれ実習を行う | 目黒・黒川・岡崎 |
| 科目の目的 | 物理療法は、運動療法と共に、理学療法の中で車の両輪をなすもので、その治療法を理解することは、疾病治療を進める上で欠かせないものであり、物理療法の治療根拠と実際を学習する。物理療法の後半部分で、温熱療法、水治療法、光線療法等について、その定義、分類、原理、生理学的作用、適応、禁忌、実際について基本的事項を習得させることを目的とする。 1. 理学療法に必要な自然科学の学びだけでなく、人間が生み出した文化や歴史、社会の動きと仕組み、生命倫理、コミュニケーションの学びを積み重ねた豊かで幅広い教養 2. 理学療法の実践に向かうための必要な基礎医学、臨床医学、理学療法学の基本的知識及び技術 3. 地域に根差したリハビリテーションの必要性和多職種連携による問題解決の重要性の理解 4. 自己研鑽に励み、自ら疑問や課題を設定し、問題解決のために調査・検討・分析できる能力 | | |
| 到達目標 | 臨床実習において物理療法の治療に当り、その治療根拠を理解し、各種疾患に対し、適切な治療ができるようにすることを目標とする。なお、グループワークの中で、自分の果たす役割ができるようにすることを目指す。 | | |
| 関連科目 | 生理学 運動学 内科学 整形外科学 基礎理学療法学 | | |
| 成績評価方法・基準 | 筆記試験（50%）実習課題（50%） | | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 事前に教科書ならびに実習書、実習要項を熟読の上参加すること。（15） | | |
| 教科書・参考書 | 教科書：「物理療法学」 金原出版 参考書：「物理療法学実習書」 群馬パース大学編 | | |
| オフィス・アワー | 講義日12：00～13：00 | | |
| 国家試験出題基準 | 《専門》-IV-3-A | | |
| 履修条件・履修上の注意 | 教科書・実習書を熟読の上講義に臨むこと | | |

| | |
|----------------|------------------------|
| アクティブ・ラーニングの実施 | グループワークによる演習を実施する予定である |
|----------------|------------------------|

講義科目名称： 装具学

授業コード： 4P107

英文科目名称： Orthotics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 3学年 | 2単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 橋口 優 | | | |

| | | | |
|-------------------------|--|--|-----|
| 授業形態 | 講義（10回）、実技演習（5回） | | 担当者 |
| 授業計画 | 第1回 | 装具学総論① 装具の意義・目的 | 橋口優 |
| | 第2回 | 装具学総論② 装具の関わる運動学/運動学的背景に基づく装具の役割 | 橋口優 |
| | 第3回 | 短下肢装具の役割と適応 短下肢装具の役割と適応 | 橋口優 |
| | 第4回 | 長下肢装具 長下肢装具の役割と適応 | 橋口優 |
| | 第5回 | 足底板・その他の下肢装具（橋口優） 足底板を含むその他の下肢装具の役割と適応 | 橋口優 |
| | 第6回 | 上肢装具 上肢装具の役割と適応 | 橋口優 |
| | 第7回 | 体幹装具 体幹装具の役割と適応 | 橋口優 |
| | 第8回 | 歩行補助具・自助具 歩行補助具や自助具の役割と適応 | 橋口優 |
| | 第9回 | 最新の装具 現状の臨床現場で利用されている最新の装具について | 橋口優 |
| | 第10回 | 疾患別の装具の適応 神経系理学療法・内部障害系理学療法における装具の適応 | 橋口優 |
| | 第11-15回 | 足底板製作演習 硬質スポンジEVAを用いて、自分自身に合わせた「内側縦アーチサポート、中足骨サポート付き外側楔足底板」を製作する。 | 橋口優 |
| 科目の目的 | 運動学的背景を基に装具の役割を理解する。 それぞれの装具の適応を理解し、必要に応じた装具の選択ができる。 理学療法介入において必要となる装具の選択に関する知識と装具作成の技術を習得する。 【思考・判断】装具学分野における諸課題を見出し、科学的洞察による的確な判断ができる。 | | |
| 到達目標 | 運動学・解剖学の知識を背景に、装具の役割を理解する。 臨床場面での使用例とその背景を理解し、装具の選択や適合判定が出来るようになることを目標とする。 後半には、演習として足底板の作成を行い、各自で目的に応じた作成が出来ることを目標とする。 | | |
| 関連科目 | 運動器解剖学、運動学、運動機能系理学療法治療学演習、神経機能系理学療法治療学演習、内部機能系理学療法治療学演習、発達支援理学療法学、日常生活活動学 | | |
| 成績評価方法・基準 | 1) 筆記試験(70%) 2) レポート課題(20%) 3) 実技演習の成果(10%) | | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 第1-2講：運動学の復習（毎回60分程度） 第3-5講：下肢の解剖学（毎回30分程度） 第6-7講：脊柱・上肢の解剖学（毎回30分程度） 第8講：日常生活活動学の復習 第10講：神経機能系理学療法治療学演習、内部機能系理学療法治療学演習の復習（毎回60分程度） 第11-15講：各自の進行状況に合わせて、作業を進める（毎回30分程度） | | |
| 教科書・参考書 | 教科書： 整形外科医学会、日本リハビリテーション医学会監修：義肢装具のチェックポイント、医学書院 | | |
| オフィス・アワー | 木曜日9:00-10:30 | | |
| 国家試験出題基準 | 《専門》-Ⅲ-7-A-b～c、《専門》-Ⅲ-7-B、《専門》-Ⅳ-4-A-b《専門》-Ⅳ-4-A-g | | |
| 履修条件・履修上の注意 | 後半（第10-15講）に実技を行うため、動きやすく汚れても良い服装を準備すること | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 授業開始時・終了時にActive Academyを利用したアンケート形式の問題を10問程度出題し、理解度の確認を行っている。 | | |

講義科目名称： 義肢学

授業コード： 4P108

英文科目名称： Prosthesis

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|-------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 3学年 | 2単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 平井 正利 | | | |

| | | |
|-------------------------|--|---|
| 授業形態 | 講義11コマ 実技4コマ | 担当者 |
| 授業計画 | <p>第1回 義肢総論 概論</p> <p>第2回 義肢総論 足継手</p> <p>第3回 義肢総論 膝継手</p> <p>第4回 下腿義足 PTB・PTS・KBM・TSB ソケット</p> <p>第5回 下腿義足 アライメント・適合・異常歩行</p> <p>第6回 大腿義足 四辺形・IRC ソケット</p> <p>第7回 大腿義足 アライメント・適合・異常歩行</p> <p>第8回 サイム・股義足・義手 概論</p> <p>第9回 下腿義足 疑似体験実習</p> <p>第10回 下腿義足 組み立て実習</p> <p>第11回 大腿義足 組み立て実習</p> <p>第12回 大腿義足 組み立て実習</p> <p>第13回 国家試験対策 過去の試験問題を理解する</p> <p>第14回 国家試験対策 過去の試験問題を理解する</p> <p>第15回 国家試験対策 過去の試験問題を理解する</p> | 平井 正利 平井 正利 平井 正利 平井 正利 平井 正利 平井 正利 平井 正利 平井 正利 平井 正利 平井 正利 平井 正利 平井 正利 平井 正利 平井 正利 平井 正利 |
| 科目の目的 | 切断後のリハビリテーションにおいて義肢は重要です。各部位に用いるパーツは様々な種類があり、その選択次第で早期社会復帰やQOL向上に大きな影響を与えます。適合判断、異常歩行を見分け迅速かつ的確に対処する知識を得るのが本講義の目的です。また国家試験を見据えた基礎知識も試験形式で学習し、定期試験によって学習度を判断します。【倫理観と幅広い教養】【基本的知識と技術】【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】【自己研鑽・探求力】 | |
| 到達目標 | 症例に合った義肢の適応判断、適合判定が行える。知識的には国家試験レベルを最低ラインとします。 | |
| 関連科目 | 解剖学，生理学，運動学，運動生理学，整形外科学，理学療法評価学，運動機能系理学療法治療学演習，神経機能系理学療法治療学演習，装具学，環境理学療法学，スポーツ傷害理学療法学，他 | |
| 成績評価方法・基準 | 定期試験100% | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | テキストは講義前に配布します。内容に目を通し、分からない用語などについては事前に調べておきましょう。 | |
| 教科書・参考書 | 教科書「義肢装具学テキスト」細田多穂（南江堂） | |
| オフィス・アワー | 講義直後 | |
| 国家試験出題基準 | 《専門》-Ⅲ-7-A-a，《専門》-Ⅲ-7-A-c，《専門》-Ⅳ-4-A-a，《専門》-Ⅳ-4-A-g | |
| 履修条件・履修上の注意 | 講義資料は配布期間内に各自印刷もしくはPCにダウンロードして持参する。 | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 実施なし | |

| | | | |
|-------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 3学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 城下 貴司 | | | |

| 授業形態 | 講義(6コマ)、実技実習(9コマ) | 担当者 |
|-------|---|-----|
| 授業計画 | 第1回 スポーツ傷害の理学療法総論 今後の講義予定 スポーツ傷害に対する演習、保険診療における絆創膏固定について | 城下 |
| | 第2回 スポーツ傷害の理学療法総論 スポーツ医学とアスレチックリハビリテーション 概論 | 城下 |
| | 第3回 スポーツ傷害に対する演習 徒手のスポーツ理学療法とテーピングの巻き方、扱い方 概論 | 城下 |
| | 第4回 スポーツ傷害に対する演習 胸椎の徒手のスポーツ理学療法と足関節捻挫と靭帯損傷に対するスポーツテーピング アンダーラップ | 城下 |
| | 第5回 スポーツ傷害に対する演習 腰椎の徒手のスポーツ理学療法と足関節捻挫と靭帯損傷に対するスポーツテーピング アンカー | 城下 |
| | 第6回 スポーツ傷害に対する演習 腰椎の徒手のスポーツ理学療法と足関節捻挫と靭帯損傷に対するスポーツテーピング スターアップ | 城下 |
| | 第7回 スポーツ傷害に対する演習 股関節の徒手のスポーツ理学療法と足関節捻挫と靭帯損傷に対するスポーツテーピング ホースシュー | 城下 |
| | 第8回 スポーツ傷害に対する演習 膝関節の徒手のスポーツ理学療法と足関節捻挫と靭帯損傷に対するスポーツテーピング サーキュラー | 城下 |
| | 第9回 スポーツ傷害に対する演習 膝関節の徒手のスポーツ理学療法と 足関節捻挫と靭帯損傷に対するスポーツテーピング フィギュアエイト | 城下 |
| | 第10回 スポーツ傷害に対する演習 足関節の徒手のスポーツ理学療法と 足関節捻挫と靭帯損傷に対するスポーツテーピング ヒールロック シングル | 城下 |
| | 第11回 スポーツ傷害に対する演習 肩関節の徒手のスポーツ理学療法と足関節捻挫と靭帯損傷に対するスポーツテーピング ヒールロック ダブル | 城下 |
| | 第12回 スポーツ傷害に対する演習 肘関節の徒手のスポーツ理学療法と足関節捻挫と靭帯損傷に対するスポーツテーピング 復習 | 城下 |
| | 第13回 スポーツ傷害に対する演習 肘関節の徒手のスポーツ理学療法と足関節捻挫と靭帯損傷に対するスポーツテーピング 復習 | 城下 |
| | 第14回 スポーツ傷害に対する演習 手関節の徒手のスポーツ理学療法と足関節捻挫と靭帯損傷に対するスポーツテーピング 復習 | 城下 |
| | 第15回 スポーツ傷害に対する演習 徒手のスポーツ理学療法と足関節捻挫と靭帯損傷に対するスポーツテーピング まとめ | 城下 |
| 科目の目的 | 本講座の目的は、スポーツ傷害・障害に対する基礎知識とその理学療法の評価・治療手技の習得すること。 *ディプロマ・ポリシー：【倫理観と幅広い教養】【基本的知識と技術】【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】【自己研鑽・探求力】 | |
| 到達目標 | ・スポーツ傷害に関する基礎知識を列挙することができる。 ・スポーツ傷害・障害に対する理学療法評価の意義・目的・評価過程・判断基準を列挙できる。 | |

| | |
|-------------------------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ傷害・障害に対する基本的なスポーツマニュアルセラピーの治療手技を適正に実践できる。 ・絆創膏固定が遂行できる。 |
| 関連科目 | 運動器解剖学、局所解剖学、表面解剖学と触診法、生理学 I および II、運動学、臨床運動学、運動学実習、整形外科学、理学療法診断学、基礎理学療法診断学演習、運動機能系理学療法診断学演習、運動機能系理学療法治療学演習、脊髄疾患理学療法演習 |
| 成績評価方法・基準 | 実技テスト50%、筆記テスト50%、レポート20%で評価する |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 事前に運動学や運動器系理学療法の基礎知識が必要となる。授業後に1時間程度の実技を含めた復習は必修となる。 |
| 教科書・参考書 | 教科書：城下貴司 運動機能系理学療法診断学 上肢編 ブイツーツリユーション 星雲社 教科書：城下貴司 運動機能系理学療法診断学 下肢編 ブイツーツリユーション 星雲社 教科書：城下貴司 運動機能系理学療法診断学 脊柱編 ブイツーツリユーション 星雲社 参考書：細田 多穂：理学療法ハンドブック第2 巻治療アプローチ 協同医書 |
| オフィス・アワー | 水曜日：12：10～13：00 |
| 国家試験出題基準 | 《専門》-V-1-F |
| 履修条件・履修上の注意 | 運動機能系診断学、運動機能系理学療法学演習、脊髄疾患理学療法学演習をよく復習しておくこと |
| アクティブ・ラーニングの実施 | グループ単位での反転授業形式を採用する。 スポーツテーピングの体験学習も行う予定である。 |

講義科目名称： 高齢者理学療法学演習

授業コード： 4P111

英文科目名称： Practice in Physiotherapy for Geriatrics

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|-------|------|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 3学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 岡崎 大資 | 林 翔太 | | |

| | | | |
|-------------------------|--|--|------|
| 授業形態 | 講義6回、学内演習9回 | | 担当者 |
| 授業計画 | 1. 講義 | 講義の概要・オリエンテーション、地域包括ケアシステムについて | 岡崎 |
| | 2. 講義 | フレイル予防と理学療法 | 岡崎 |
| | 3. 講義 | 高齢者に対する基本的な理学療法評価 | 岡崎 |
| | 4. 講義 | 高齢者の体力の向上に対する科学的根拠 | 岡崎 |
| | 5. 講義 | 高齢者の体力の向上に対する介入方法 | 岡崎 |
| | 6. 講義 | 介護予防事業における理学療法士の役割 | 岡崎 |
| | 7. 演習 | 介護予防事業計画の立案 高齢者の身体・心理・社会的特徴の検討（グループワーク）1 | 岡崎 |
| | 8. 演習 | 介護予防事業計画の立案 ロコモティブシンドローム、メタボリックシンドロームの検討（グループワーク）2 | 岡崎 |
| | 9. 演習 | 介護予防事業計画の立案 フレイルの検討（グループワーク）3 | 岡崎 |
| | 10. 演習 | 介護予防事業計画の立案 生活における行動マネジメントの検討（グループワーク）4 | 岡崎 |
| | 11. 演習 | 介護予防事業計画の立案 地域社会との連携の検討（グループワーク）5 | 岡崎 |
| | 12. 演習 | 介護予防事業計画の立案 自主グループ化に関する問題と展望の検討（グループワーク）6 | 岡崎 |
| | 13. 演習 | 介護予防事業計画の発表（発表会） | 岡崎 |
| | 14. 演習 | 介護予防事業のマネジメント1（学内演習） | 岡崎・林 |
| | 15. 演習 | 介護予防事業のマネジメント2（学内演習） | 岡崎・林 |
| 科目の目的 | 地域理学療法学で習得した内容を基礎として、それらを実践的に活用できる思考および技術を習得する。 【倫理観と幅広い教養】 【基本的知識と技術】 【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】 【自己研鑽・探求力】 | | |
| 到達目標 | 介護予防に関する制度や概念を理解し、説明できる。介護予防事業における事業計画を立案できる。高齢者に対する理学療法評価、理学療法介入の知識・技術を習得する。 | | |
| 関連科目 | 日常生活活動学、地域理学療法学、生活環境学、環境理学療法学、運動機能系理学療法診断学・治療学、神経機能系理学療法診断学・治療学、内部機能系理学療法診断学・治療学、発達支援理学療法学、見学実習、評価学実習、地域理学療法実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ | | |
| 成績評価方法・基準 | グループワークの討議と実践（50%）、課題提出（50%） | | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 「地域理学療法学」の内容を復習する。また、前回の講義の内容を復習し、次回の講義との関連性を事前に理解して講義に臨むこと。必要な学習時間の目安は20分程度とする。 | | |
| 教科書・参考書 | 教科書： 「運動療法学各論 高齢者の機能障害に対する運動療法」市橋則明編（文光堂） 参考書： 指定しない。 | | |
| オフィス・アワー | 月曜日13時-14時 | | |
| 国家試験出題基準 | ≪専門≫-IV-10-A, ≪専門≫-V-1-G~H, ≪専門≫-V-1-J | | |
| 履修条件・履修上の注意 | | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 高齢者に対する介護予防の知識を基に、課題を発見し、その課題を解決する方法をグループワークとして検討する。 | | |

| | |
|----------------|--|
| 実務経験のある教員による授業 | |
| 実務経験 | 岡崎 大資（理学療法士） |
| 授業の概要 | 理学療法の対象者において、高齢者は多くを占めている。演習では地域在住の高齢者を対象とする地域理学療法について、見学・体験実習を実施することで、医療的視点に加え生活に対する視点を持つとともに、地域における高齢者に対する理学療法士の役割について学ぶ。併せて、地域理学療法に従事するために熟知しておくべき法制度を学ぶとともに、法制度に基づく分野での理学療法の目的、現況等を、各法制度の目的や方法、制定に至った歴史的背景、具体的事例等を通して学習する。 |

講義科目名称： リハビリテーション栄養学

授業コード： 4P112

英文科目名称： Rehabilitation Nutrition

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|-------|------|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 3学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 浅田 春美 | 棚橋由佳 | | |

| | | | |
|-------------------------|--|--|------|
| 授業形態 | 講義6コマ、演習2コマ | | 担当者 |
| 授業計画 | 第1回 | リハビリテーションと栄養 なぜリハビリテーション栄養が必要か | 浅田春美 |
| | 第2回 | 運動栄養学とリハビリテーション 筋萎縮の原因と対応、栄養と運動のタイミング、筋力・持久力・訓練効果を高める 栄養 | 浅田春美 |
| | 第3回 | 栄養不良時のリハビリテーション 栄養不良時の代謝、サルコペニア、栄養不良時の運動療法 | 浅田春美 |
| | 第4回 | リハビリテーション栄養スクリーニング 代表的な栄養スクリーニング方法の紹介 | 浅田春美 |
| | 第5回 | リハビリテーション栄養アセスメント 身体計測、検査値、摂食・嚥下機能評価、リハビリテーションの種類と内容 | 浅田春美 |
| | 第6回 | NST（栄養サポートチーム） | 浅田春美 |
| | 第7回 | 主な疾患のリハビリテーション栄養1 廃用症候群、脳卒中、パーキンソン病、がん、関節リウマチ | 棚橋由佳 |
| | 第8回 | 主な疾患のリハビリテーション栄養2 誤嚥性肺炎、褥瘡、大腿骨頸部骨折、慢性閉塞性肺疾患、慢性心不全 | 棚橋由佳 |
| 科目の目的 | リハビリテーションの対象者における身体エネルギーや身体構造のために必要な栄養学の重要性和概要を理解する。 栄養障害・サルコペニア・栄養素摂取の評価によるリハビリテーション栄養スクリーニングやアセスメントについて学習する。運動栄養学では栄養と運動のタイミングや筋力・持久力を高める栄養など概説し、栄養不良時の栄養管理と運動や活動量の目標設定、リハ栄養介入の実施方法などを学ぶ。また栄養サポートチーム（NST）の構成員、他職種での取り組みの必要性・重要性について学び、具体的な症例について検討を行い一部演習にて理解を深める。 【倫理観と幅広い教養】【基本的知識と技術】【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】 【自己研鑽・探求力】 | | |
| 到達目標 | 1. リハビリテーション対象者に栄養障害が多く、栄養管理が必要であることを理解する 2. 栄養障害・サルコペニアなどの状態と評価方法を理解する 3. リハビリテーションの効果を高める栄養について理解する 4. 主な疾患のリハビリテーション栄養（評価・ケアプラン）について理解する | | |
| 関連科目 | 多職種理解と連携、臓器解剖学、生理学Ⅰ・Ⅱ、生化学、公衆衛生学、整形外科学、神経内科学、リハビリテーション医学、栄養学、緩和医療学、基礎運動療法、高齢者理学療法演習、スポーツ理学療法学、 | | |
| 成績評価方法・基準 | 演習での成果物40%、筆記試験60% | | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 栄養学、生理学、生化学、臨床検査学などで学んだ栄養・代謝に関せする内容を復習（30分程度） リハビリテーション医学で学んだ対象疾患についての復習（30分程度） 事例演習では、講義内容を踏まえた予習（30分） | | |
| 教科書・参考書 | 【教科書】 若林秀隆著：PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養第3版、医歯薬出版株式会社、2020 | | |
| オフィス・アワー | 水曜日12：10～13：00 | | |
| 国家試験出題基準 | 《専門基礎》-Ⅱ-4-C-m、《専門》-Ⅰ-3-L、《専門》-Ⅳ-5-A-c、《専門》-Ⅳ-5-H | | |
| 履修条件・履修上の注意 | | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 問題解決学習、グループ・ディスカッション | | |

講義科目名称： 福祉機器論

授業コード： 4P113

英文科目名称： Adaptation to Assistive Device Use

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|------|-----|------|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 3学年 | 1単位 | 選択 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 南 征吾 | 近藤健 | 石代敏拓 | |

| | | | |
|-------------------------|--|----------------------------|---------|
| 授業形態 | 講義8コマ（演習および実習、校外学習を併用して実施） | | 担当者 |
| 授業計画 | 第1回 | オリエンテーションおよびガイダンス | 南・近藤・石代 |
| | 第2回 | 自助具、福祉用具の総論および各論 | 南・近藤・石代 |
| | 第3回 | 自助具①（生活に困っている人に合わせて自助具を作成） | 南・近藤・石代 |
| | 第4回 | 自助具②（生活に困っている人に合わせて自助具を作成） | 南・近藤・石代 |
| | 第5回 | 自助具③（作成した自助具について説明） | 南・近藤・石代 |
| | 第6回 | 福祉用具①（福祉用具の作成） | 南・近藤・石代 |
| | 第7回 | 福祉用具②（作成した福祉用具の説明） | 南・近藤・石代 |
| | 第8回 | 福祉機器論の総括 | 南・近藤・石代 |
| 科目の目的 | 住宅や施設で生活する対象者の日常生活を支援するため、適切な福祉用具の活用と住環境の適応について考える。なお、福祉機器によって対象者の個人にあわせた問題解決にむけて、問いを立て続ける能力を学ぶ。 | | |
| 到達目標 | 1) 福祉用具論に関して、福祉用具と住環境の位置づけを論理的に説明することができる。 2) 対象者の「自立的な生活」を支援する、福祉用具の基礎から適応までを説明することができる 3) 対象者に「自立的な生活」を支援する、福祉用具の製作することができる。 | | |
| 関連科目 | 日常生活活動学、身体障害関連 など | | |
| 成績評価方法・基準 | 期末試験等50%、レポート課題等30%、グループワークの取り組み20% フィードバック等はオフィス・アワードを含め随時する。 | | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 指定した参考書を読んでおくこと。範囲については毎回の授業で指定する。 準備学習に必要な学習時間は45分程度とする。 | | |
| 教科書・参考書 | 参考書：日常生活および身体障害の関連する本 | | |
| オフィス・アワー | 講義当日の昼休み、場所は各教員の研究室 | | |
| 国家試験出題基準 | 《専門》-Ⅲ-7-B, 《専門》-Ⅳ-4-A-f, 《専門》-Ⅳ-4-A-h, 《専門》-Ⅴ-1-L~M | | |
| 履修条件・履修上の注意 | | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 福祉機器に係るテーマに対象者の「自立的な生活」を支援する手立てを「Tink-pair-share」の学習方法によって意見交換しながら実施する。また、ブレインストーミングを用いて活気のある意見交換につなげる。 | | |

講義科目名称： 作業療法理論

授業コード： 4P114

英文科目名称： Theories of Occupational Therapy

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|-------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 3学年 | 1単位 | 選択 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 石井 良和 | | | |

| 授業形態 | 講義 | 担当者 | |
|-------------------------|--|--|------|
| 授業計画 | 第1回 | オリエンテーション (クライアント中心の諸理論の概説) | 石井良和 |
| | 第2回 | 生体力学モデル, 運動コントロールモデル, 感覚統合モデル | 石井良和 |
| | 第3回 | 意図的關係モデル, カナダ作業遂行モデル, 人間作業モデル | 石井良和 |
| | 第4回 | 人間作業モデルの変遷 (初版～第5版までの特徴) | 石井良和 |
| | 第5回 | 人間作業モデルにおけるシステム論 (Dynamical System Theory) | 石井良和 |
| | 第6回 | 事例報告を通してみる理論・実践モデル | 石井良和 |
| | 第7回 | 接面パラダイムと現象学 | 石井良和 |
| | 第8回 | まとめとレポート課題の提示 | 石井良和 |
| 科目の目的 | 現代作業療法の諸理論・モデルを概観し, とくにシステム理論的発想からクライアント中心の実践を導く人間作業モデルの理解を深めることによって, 多職種連携による問題解決の重要性を理解する。 | | |
| 到達目標 | 現代作業療法の諸理論の概略を説明できる。 人間作業モデルにおけるシステム理論を説明できる。 人間作業モデルを症例に当てはめて考えることができる。 関与観察による主観的クライアント理解 (接面的パラダイム) について説明できる。 | | |
| 関連科目 | 理学療法学概論, 多職種理解と連携 | | |
| 成績評価方法・基準 | 授業中の発言や授業への態度 (20%), 授業課題 (10%), レポート (70%) を総合して評価する。 | | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | オリエンテーションで紹介する文献等を読み, 各講義の内容に対して, わかりにくい概念などをチェックし, 復習時に確認しておくこと。1時間程度を目安として準備をしてください。 | | |
| 教科書・参考書 | 教科書: 作業療法実践の理論 原書第4版 医学書院 | | |
| オフィス・アワー | 講義当日は昼休みを中心とするが, その後は18時まで可。他の曜日は事前に連絡をすれば可。場所は石井研究室 | | |
| 国家試験出題基準 | | | |
| 履修条件・履修上の注意 | | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 実施なし | | |

講義科目名称： 就労支援技術論

授業コード： 4P115

英文科目名称： Vocational Rehabilitation

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|-------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 3学年 | 1単位 | 選択 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 馬場 順子 | | | |

| | | | |
|-------------------------|--|-------------------------------|-----|
| 授業形態 | 講義7コマ，施設見学1コマ | | 担当者 |
| 授業計画 | 第1回 | 職業リハビリテーションの概念，働くことの意義と関連する理論 | 馬場 |
| | 第2回 | 日本の障害者雇用の現状と動向 | 馬場 |
| | 第3回 | 障害者就労支援の基本的技術① | 馬場 |
| | 第4回 | 障害者就労支援の基本的技術② | 馬場 |
| | 第5回 | 就労支援における作業療法の役割と機能 | 馬場 |
| | 第6回 | 障害特性と職業的課題①（身体障害・知的障害領域） | 馬場 |
| | 第7回 | 障害特性と職業的課題②（精神障害・発達障害領域） | 馬場 |
| | 第8回 | 就労支援施設の見学 ※レポート課題あり | 馬場 |
| 科目の目的 | 就労支援の意義を理解し、障害者就労支援における知識と技術および作業療法の役割と機能を学び、地域に根差したリハビリテーションの必要性と多職種連携による問題解決の重要性を理解理解する。 | | |
| 到達目標 | 1. 障害者雇用の現状と就労支援の意義を理解し、関連する社会資源や関連職種の理解を深める。 2. 理学療法の役割と機能を理解し、障害特性に応じた就労支援技術の理解を深める。 | | |
| 関連科目 | 障害と理学療法，社会福祉・地域サービス論，チーム医療とリハビリテーション | | |
| 成績評価方法・基準 | 期末試験60%，レポート課題40%を合わせて評価する。Active Academyまたは口頭でフィードバックする。 | | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 1. 障害者就労に関心を持ち，就労支援施設や障害者雇用に関する企業情報などを得ておく。 2. 講義内でふれた内容について理解を深め，疑問点を整理する。 ※事前学習に必要な学習時間の目安は1コマあたり2時間とする。 | | |
| 教科書・参考書 | 教科書：なし 参考書1：「就業支援ハンドブック」独立行政法人高齢・障害・求職者支援機構 参考書2：「キャリア支援に基づく職業リハビリテーションカウンセリング-理論と実際-」松為信雄（ジアース教育新社） | | |
| オフィス・アワー | 講義終了日の17時まで。馬場研究室。 | | |
| 国家試験出題基準 | | | |
| 履修条件・履修上の注意 | | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 施設見学による体験学習を含む。 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |
| 実務経験 | 馬場順子（作業療法士） | | |
| 授業の概要 | | | |

講義科目名称： 災害保健学

授業コード： 4P116

英文科目名称： Disaster Response and Recovery

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|-------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 3学年 | 1単位 | 選択 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 宮寺 寛子 | | | |

| | | |
|-------------------------|--|---|
| 授業形態 | 講義8コマ | 担当者 |
| 授業計画 | <p>第1回 大規模災害の定義，災害リハビリテーションの概要</p> <p>第2回 災害リハビリテーション対応の原則</p> <p>第3回 災害後の課題とその対応①</p> <p>第4回 災害後の課題とその対応②</p> <p>第5回 被災者間コミュニケーション，集団の影響</p> <p>第6回 精神心理的支援，支援者のストレスとセルフケア</p> <p>第7回 事例検討 *レポート課題</p> <p>第8回 発表とまとめ レポート課題のフィードバック</p> | <p>宮寺 寛子</p> <p>宮寺 寛子</p> <p>宮寺 寛子</p> <p>宮寺 寛子</p> <p>宮寺 寛子</p> <p>宮寺 寛子</p> <p>宮寺 寛子</p> <p>宮寺 寛子</p> |
| 科目の目的 | 被災者を支援するための知識等を整理し，自然災害時及び緊急災害援助，PTSDの対処方法について学ぶ。 【論理感と幅広い教養】 【地域リハビリテーションの理解・問題解決】 【自己研鑽・探求力】 | |
| 到達目標 | ①医療福祉専門職として，災害への備えと災害時のセルフケアの重要性を説明できる。 ②災害により被災者が受ける精神心理的・身体的影響を理解し，個人・集団・行政の視点から適切な支援を検討するための基礎知識を習得する。 | |
| 関連科目 | 救急・免疫・感染症学，地域理学療法学 | |
| 成績評価方法・基準 | レポート（20%），期末試験（80%）を合わせて評価する。 | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | ①資料の該当箇所を読み復習予習する。 ②グループワークでは，各自でリサーチを行い担当資料を整理しておく。 準備学習に必要な学習時間の目安は1コマ当たり1時間とする。 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：なし，適宜資料を配布。 参考書：災害リハビリテーション標準テキスト（医歯薬出版株式会社） | |
| オフィス・アワー | 講義日の17時まで | |
| 国家試験出題基準 | 《専門》-V-1-D | |
| 履修条件・履修上の注意 | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 反転授業をもとにしたグループディスカッションを行い，問題発見と解決を繰り返す。 | |

| | | | |
|------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 3学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 佐藤 満 | | | |

| 授業形態 | 講義 | 担当者 |
|-------------------------|--|--|
| 授業計画 | 第1回 地域理学療法総論 地域理学療法の歴史と現況、地域リハに関わる職種と連携、医療と介護の流れ 第2回 介護保険制度と理学療法1 居宅介護サービスと施設サービス、介護予防サービス、地域密着型介護サービス 第3回 介護保険制度と理学療法2 居宅介護支援、要介護認定、個別リハビリ・個別機能訓練 第4回 介護保険制度と理学療法3 地域支援事業、地域包括ケアシステム、障害者総合支援法、確認課題 第5回 地域理学療法実践論1 地域における対象者の特徴と捉え方、病院での理学療法との違い 第6回 地域理学療法実践論2 対象者ニーズの特徴と把握の手法 第7回 地域理学療法実践論3 地域理学療法の事例検討（転倒予防、認知症） 第8回 地域理学療法実践論4 地域理学療法の事例検討（ターミナルケア、QOL測定）、確認課題 | 佐藤 満 佐藤 満 佐藤 満 佐藤 満 佐藤 満 佐藤 満 佐藤 満 佐藤 満 |
| 科目の目的 | 在宅生活を送る医療施設退院後の高齢者や障害者などへの理学療法である地域理学療法の概念、制度、対象者の捉え方、評価、治療、援助などの手法を理解する。 【倫理観と幅広い教養】 【基本的知識と技術】 【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】 【自己研鑽・探求力】 | |
| 到達目標 | 1. 地域理学療法に関連した保健・福祉に関する概念・歴史の概略を説明できる。 2. 地域理学療法に関連する制度とその課題について説明できる。 3. 介護保険制度や地域支援事業における理学療法の目的・特質を説明できる。 4. 地域理学療法の対象者の捉え方、評価、治療、援助法の特徴が説明できる。 5. 通所や訪問施設における理学療法の治療・援助法が説明できる。 6. 病院での理学療法と地域での理学療法の違いを説明できる。 | |
| 関連科目 | 日常生活活動学、日常生活活動学演習、高齢者理学療法学演習、生活環境学、地域リハビリテーション学、運動機能系理学療法診断学演習、運動機能系理学療法治療学演習、神経機能系理学療法診断学演習、神経機能系理学療法治療学演習、内部機能系理学療法治療学演習、評価学実習、地域理学療法実習、総合臨床実習I、総合臨床実習II | |
| 成績評価方法・基準 | 定期テスト(60%)、課題(40%) | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 前回の講義の内容を復習し、次回の講義との関連性を事前に理解して講義に臨むこと。必要な学習時間の目安は上記を果たすことができる時間を各自設定すること。概ね90分を目安とする。 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：「標準理学療法学専門分野地域理学療法学第5版」牧田光代・金谷さとみ編(医学書院) 参考書：特に指定しない | |
| オフィス・アワー | 日時：講義日の17:50～18:20 場所：1号館6階611号室 | |
| 国家試験出題基準 | ≪専門≫-V-1-A, ≪専門≫-V-1-C～G, ≪専門≫-V-1-I, ≪専門≫-V-1-L～M, ≪専門≫-V-2-A-a～1, ≪専門≫-V-2-B-a～1, ≪専門≫-V-2-C-a～1, ≪専門≫-V-2-D-a～1 | |
| 履修条件・履修上の注意 | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 実施なし | |

| | | | |
|------|-------|-------|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 3学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 佐藤 満 | 村田 和香 | 馬場 順子 | 岡田 直純 |
| | 浅田 春美 | 加茂 智彦 | |

| | | | |
|-------------------------|--|---|------------------------|
| 授業形態 | 講義（3回）、演習（5回） | | 担当者 |
| 授業計画 | 第1回 | オリエンテーション 総論（講義） 地域で生活する高齢者・障害者の実態と保健・医療・福祉によるサービス提供 | 佐藤, 村田 |
| | 第2回 | 地域理学療法の実践（講義） 在宅高齢者・障害者に対する地域理学療法の意義と具体的実践例 | 佐藤, 村田 |
| | 第3回 | 地域作業療法の実践（講義） 在宅高齢者・障害者に対する地域作業療法の意義と具体的実践例 | 村田, 佐藤 |
| | 第4回 | グループ討議1 地域在住の高齢者のフレイル対策としての理学療法士・作業療法士の関りの検討 | 村田, 馬場, 岡田, 佐藤, 浅田, 加茂 |
| | 第5回 | グループ討議2 地域在住の高齢者のフレイル対策としての理学療法士・作業療法士の関りの検討 | 村田, 馬場, 岡田, 佐藤, 浅田, 加茂 |
| | 第6回 | グループ討議3 自宅退院後の脳血管疾患片麻痺患者の日常生活における活動性低下防止のための関りの検討 | 村田, 馬場, 岡田, 佐藤, 浅田, 加茂 |
| | 第7回 | グループ討議4 自宅退院後の脳血管疾患片麻痺患者の日常生活における活動性低下防止のための関りの検討 | 村田, 馬場, 岡田, 佐藤, 浅田, 加茂 |
| | 第8回 | 発表会 それぞれのグループ討議のまとめをパワーポイント等を用いてプレゼンテーションする。 | 村田, 馬場, 岡田, 佐藤, 浅田, 加茂 |
| 科目の目的 | 全ての人々がより良い生活を実践し、安寧で豊かな人生を達成するための関わりをもつ理学療法及び作業療法の意義と目的について学習する。地域で生活する高齢者・障害者の生活上の問題や課題を関し、それらを解決するための具体的方法について、グループワークを基に学習し、理学療法及び作業療法学科学生を持つ視点・価値観を共有する。 【倫理観と幅広い教養】【基本的知識と技術】【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】 【自己研鑽・探求力】 | | |
| 到達目標 | 1. 地域で生活する高齢者・障害者の生活上の多様な問題や課題を理解し説明できる。 2. 保健・医療・福祉に関連する法律と各専門職種の役割の大枠を理解し、サービス提供方法を説明できる。 3. 対象者の問題や課題の解決方法を理学療法・作業療法・言語聴覚の視点から価値観を共有しつつ具体的介入方略を検討し、説明できる。 4. 対象者の問題や課題の解決方法を公的・非公的社会的資源の知識を基に具体的なサービス提供方法を検討し、説明できる。 | | |
| 関連科目 | 多職種理解と連携、リハビリテーション概論、チーム医療とリハビリテーション、社会福祉・地域サービス | | |
| 成績評価方法・基準 | グループ討議に関するレポート（60%）、発表会（40%）：グループ討議中、発表会後に全体討論を含めたフィードバックを行う | | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 講義では前回の講義内容の復習と次回の講義内容との関連性を事前に理解して講義に臨むこと。必要な学習時間の目安は概ね2時間程度である。 | | |
| 教科書・参考書 | 特に定めない | | |
| オフィス・アワー | 講義終了日の17時まで、各教員の研究室。 | | |
| 国家試験出題基準 | 《専門基礎》-Ⅲ-2-E-e, 《専門基礎》-Ⅲ-2-F, 《専門》-V-1-B | | |
| 履修条件・履修上の注意 | | | |
| アクティブ・ラー | グループ・ディスカッション、グループワークを含む | | |

| | |
|----------------|---|
| | 教科書：今すぐ使えるかんたん JW-CAD（改訂第二版） 技術評論社 参考書：「共生のユニバーサルデザイン」学芸出版社 参考書：「生活環境論」 医歯薬出版 |
| オフィス・アワー | 講義日もしくは月曜日12：00～13：00 |
| 国家試験出題基準 | 《専門》-I-3-T, 《専門》-IV-8-B, 《専門》-V-1-K |
| 履修条件・履修上の注意 | 事前学修しておくことが望ましい |
| アクティブ・ラーニングの実施 | PCを用いた演習を実施する予定である。極力OSはWINDOWSで用意しておくことが望ましい 課題の内容について適宜フィードバックを行う |

講義科目名称： 国際保健学

授業コード： 4P120

英文科目名称： Global Health

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|-------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 4学年 | 1単位 | 選択 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 宮寺 寛子 | | | |

| | | |
|-------------------------|------------------------|-----|
| 授業形態 | | 担当者 |
| 授業計画 | ※今年度開講せず（2021年度カリキュラム） | |
| 科目の目的 | | |
| 到達目標 | | |
| 関連科目 | | |
| 成績評価方法・基準 | | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | | |
| 教科書・参考書 | | |
| オフィス・アワー | | |
| 国家試験出題基準 | | |
| 履修条件・履修上の注意 | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | | |

| | | | |
|------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 3学年 | 5単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 橋口 優 | | | |

| | | | |
|-------------------------|---|--|----------|
| 授業形態 | 学外実習 | | 担当者 |
| 授業計画 | 1コマ 実習前学習 実習の目的、学習到達度、成績評価方法、実習スケジュール、実習方法などについて、臨床実習指導者の紹介・打ち合わせ | | 学科実習委員 |
| | 2コマ 実習前OSCE（実技） 実習前演習 | | 担当プロパー教員 |
| | 4週間 病院、施設での実習 病院、施設の実習指導者による指導 | | 学外の実習指導者 |
| | 2.5時間 実習訪問での実習指導者との意見交換 各医療機関へ専任教員が訪問し、実習の経過・進捗の確認、その他臨床実習指導者との打ち合わせなどを実施 | | プロパー教員全員 |
| | 2.5時間 実習訪問での学生指導 各教員6ヶ所訪問し、1ヶ所2.5時間の学生指導の実施 | | 担当プロパー教員 |
| | 2.5時間 実習訪問での実習指導者との意見交換と学生指導 学生への個別指導 | | 担当プロパー教員 |
| | 2.5時間 実習訪問での実習指導者との意見交換と学生指導 学生への個別指導 | | 担当プロパー教員 |
| | 2.5時間 実習訪問での実習指導者との意見交換と学生指導 学生への個別指導 | | 担当プロパー教員 |
| | 2.5時間 実習訪問での実習指導者との意見交換と学生指導 学生への個別指導 | | 担当プロパー教員 |
| | 2.5時間 実習訪問での実習指導者との意見交換と学生指導 学生への個別指導 | | 担当プロパー教員 |
| | 2コマ 実習後OSCE（実技） 実習後演習 | | プロパー教員全員 |
| | 2コマ 評価実習成果報告会 評価学実習で経験した内容について発表 | | プロパー教員全員 |
| 科目の目的 | 病院・施設等の実習指導者の指導のもとに、既習の知識を総動員し患者の臨床的問題を解決するための情報収集、理学療法評価、理学療法診断、問題点抽出、目標設定ができるようになる。 【知識・理解】 理学療法士としての基礎的知識と、社会人としての教養を身につける。 【思考・判断】 理学療法分野の諸課題を見出し、科学的洞察による的確な判断力を身につける。 【技能・表現】 先進・高度化する専門分野の基本的技術を身につけ、チーム医療を実践するためのコミュニケーション能力を身につける。 【関心・意欲】 専門分野を探究する意欲を持つとともに、人と社会に深い関心を持つ 【態度】 人権を尊重し、高い倫理観をもって社会に貢献する姿勢を身につける。 | | |
| 到達目標 | 1. 社会人・専門職としての基本的態度を身につける。 2. 理学療法を実施するのに必要な患者の情報を収集することができる。 3. 患者の疾患、障害に即した検査・測定を選択、実施することができる。 4. 情報収集、検査・測定の結果から理学療法における問題点の抽出ができる。 5. 理学療法における目標設定ができる。 | | |
| 関連科目 | 全科目 | | |
| 成績評価方法・基準 | 実習前後OSCE（20%）、総合臨床実習指導報告書・提出物および成果報告会（80%） | | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | これまで学習してきた知識と技術の全てを実習開始までに復習すること。必要な学習時間の目安は上記を果たすことができる時間を各自設定すること。 | | |
| 教科書・参考書 | 教科書：使用しない 参考書：特になし | | |
| オフィス・アワー | 学外実習のため特に設定せず、訪問時に対応 | | |
| 国家試験出題基準 | 《専門》-VI-1-A～I, 《専門》-VI-2-A～L, 《専門》-VI-4-A | | |
| 履修条件・履修上の注意 | 3年前期までに開講された必修科目の単位を認定されていない者は履修できない。 | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 実習前OSCE・CBT・学内実習等の実施により、実習前の期間における知識・技術の自己学習を促す。 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | | |

| | |
|-------|---|
| 実務経験 | 橋口 優（理学療法士） |
| 授業の概要 | 学内で学んだ理学療法の評価法の知識・技術を中心に病院・施設で実習する。理学療法の対象疾患である中枢神経疾患、整形外科疾患等の医療面接法、各種検査・測定、記録法等について、臨床実習指導者の下で実体験する。実習期間前後の合計5日間を事前事後指導にあてる。 |

講義科目名称： 地域理学療法実習

授業コード： 4P123

英文科目名称： Practice in Community-Based Physiotherapy

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|-------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期 | 3学年 | 1単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 浅田 春美 | | | |

| | | |
|-------------------------|---|--|
| 授業形態 | 講義（ガイダンス：1コマ）、学外演習（1週間：40時間）、演習：実習後まとめ（2コマ） | 担当者 |
| 授業計画 | <p>1 講義：地域理学療法実習ガイダンス（1時間） 地域理学療法実習の目的・実習内容等の説明、自己の目標設定</p> <p>2 演習：学外臨床実習（40時間） 介護老人保健施設や通所リハビリテーション施設での学外実習施設における見学実習（臨床実習）</p> <p>3 演習：実習後報告会（2時間） 地域理学療法実習で学んできたことについての振り返りと報告会。自己目標に対するフィードバック</p> | <p>鈴木，浅田，橋口，田辺，加茂</p> <p>（学外実習指導者）</p> <p>高橋，木村，鈴木，目黒，岡崎，浅田，城下，橋口，黒川，田辺，加茂</p> |
| 科目の目的 | <p>地域理学療法で学んだ知識や評価学実習での経験を踏まえ、地域理学療法の現場を実際に見聞し、地域包括システムの理念や理学療法士の役割について理解を深める。</p> <p>また地域に根差したリハビリテーションの必要性や地域在住の方の生活を支援するために必要な理学療法や住環境整備・福祉機器や用具、多職種との連携による問題解決の重要性、行政との関わりについて実践を通して理解することを目的とする。</p> <p>4年次の総合臨床実習Ⅰ・Ⅱに向けての導入・準備のための実習と位置づける。</p> <p>【倫理観と幅広い教養】【基本的知識と技術】【地域リハビリテーションの理解・問題解決力】 【自己研鑽・探求力】</p> | |
| 到達目標 | <p>1. 施設職員，多職種，対象者に対して適切なコミュニケーションをとり，適切な態度を形成する。</p> <p>2. 通所または訪問リハビリテーション場面で生活期の理学療法を見学（経験）し，医療場面での理学療法との相違，重要性を理解する。</p> <p>3. 理学療法士による個別への対応，集団への対応（理学療法実施）など地域理学療法や高齢者理学療法実習で学んだ知識をより深める。</p> <p>4. 各施設で提供しているサービス内容を把握し，理学療法士の業務内容と役割を理解する。</p> <p>5. 地域包括支援システムや介護保険制度，障がい者総合支援法などの制度の一部を理解する。</p> | |
| 関連科目 | 3年前期までの履修科目全般。評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ | |
| 成績評価方法・基準 | 学外臨床実習成績（情意領域，ポートフォリオ）60%、実習後報告会の成績40%を総合して評価する。 | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | 医療面接，地域理学療法，高齢者理学療法実習で学んだ内容や制度の復習，移乗動作介助を学生同士で練習するなど（4時間程度） | |
| 教科書・参考書 | 教科書：なし 参考書：岡田慎一郎他：理学療法臨床実習サポートブック，医学書院，2015 | |
| オフィス・アワー | 学外実習のため特に設定せず。電話にてフォローアップ。 | |
| 国家試験出題基準 | 《専門》-VI-3-A～E | |
| 履修条件・履修上の注意 | 当該科目前に開講されている全必須科目を履修していること。 | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | 体験学習 | |
| 実務経験のある教員による授業 | | |
| 実務経験 | 浅田 春美（理学療法士） | |
| 授業の概要 | 地域包括支援の方向にあって、地域での生活を支援するために必要な理学療法、多職種との連携、行政との関わりを理解することを目的とした実習を行う。通所でのリハビリテーションまたは訪問リハビリテーションにて実務体験を通じて、多様な理学療法のありかたや多職種との連携を実践的に学ぶ。 | |

講義科目名称： 総合臨床実習 I

授業コード： 4P124

英文科目名称： Comprehensive Clinical Practicum I

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 4学年 | 8単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 鈴木 学 | | | |

| | | |
|-------------------------|--|-----|
| 授業形態 | | 担当者 |
| 授業計画 | ※今年度開講せず（2021年度カリキュラム） | |
| 科目の目的 | | |
| 到達目標 | | |
| 関連科目 | | |
| 成績評価方法・基準 | | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | | |
| 教科書・参考書 | | |
| オフィス・アワー | | |
| 国家試験出題基準 | | |
| 履修条件・履修上の注意 | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | |
| 実務経験 | 鈴木 学（理学療法士） | |
| 授業の概要 | 学内で学んだ理学療法の知識、技術全般について、病院、施設で実習する。患者を対象として理学療法の流れに従って、理学療法評価、治療目標の設定、治療プログラムの作成、治療の実施、記録等を、臨床実習指導者の下で学ぶ。実習期間の前後合計5日間を事前事後指導にあてる。 | |

講義科目名称： 総合臨床実習Ⅱ

授業コード： 4P125

英文科目名称： Comprehensive Clinical Practicum II

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

| | | | |
|------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 4学年 | 8単位 | 必修 |
| 担当教員 | 担当者 | | |
| 鈴木 学 | | | |

| | | |
|-------------------------|--|-----|
| 授業形態 | | 担当者 |
| 授業計画 | ※今年度開講せず（2021年度カリキュラム） | |
| 科目の目的 | | |
| 到達目標 | | |
| 関連科目 | | |
| 成績評価方法・基準 | | |
| 準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安 | | |
| 教科書・参考書 | | |
| オフィス・アワー | | |
| 国家試験出題基準 | | |
| 履修条件・履修上の注意 | | |
| アクティブ・ラーニングの実施 | | |
| 実務経験のある教員による授業 | | |
| 実務経験 | 鈴木 学（理学療法士） | |
| 授業の概要 | 学内で学んだ理学療法の知識、技術全般について、病院、施設で実習する。患者を対象として理学療法の流れに従って、理学療法評価、治療目標の設定、治療プログラムの作成、治療の実施、記録等を、臨床実習指導者の下で学ぶ。実習期間の前後合計5日間を事前事後指導にあてる。 | |